

第2章

環境の現状

本章では、各種の既存文献資料や統計資料などを分析し、本町の環境の現状を示すとともに、環境特性マップで環境資源の分布状況を整理しています。



第1節 社会環境

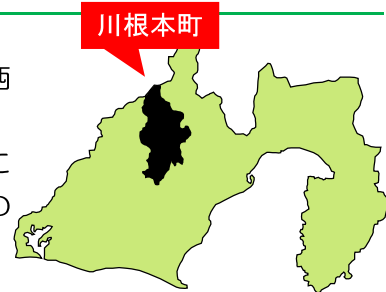


1 立地条件・面積

■県全体の約6.4%を占める森林のまち

本町は静岡県の中央部に位置し、東は静岡市、南は島田市、西は浜松市に隣接するほか、北は長野県との県境となっています。

町域は大井川に沿った東西約23km、南北約40kmの南北に細長い形で、面積は496.72km²（県全体の6.4%）、このうちの約94%を森林が占めています。



2 まちの歩み

■木材・木炭製造から川根茶栽培・観光のまちへ

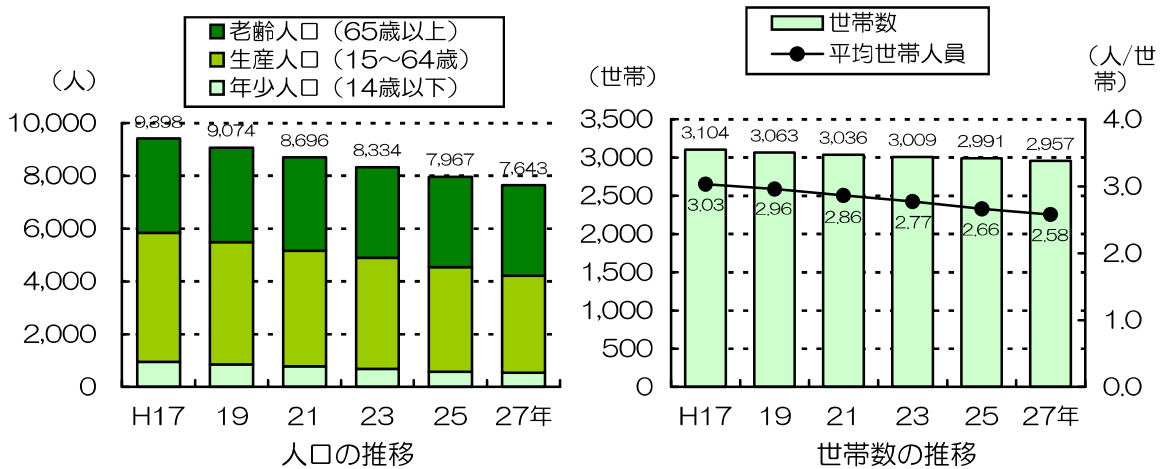
本町では古くから、稲作や木材・木炭製造、椎茸栽培などが行われてきましたが、近世初期から茶の栽培が始まり、明治時代以降は輸出産業として高い評価を受けてきました。

明治時代末からダム建設が始まり、大正・昭和時代には次々と発電所が建設されました。お茶と林業とダムに加え、高度成長期には工場誘致と寸又峡温泉などを中心とした観光振興の取り組みが進められてきました。特に基幹産業である茶業では、農林水産大臣賞などの輝かしい賞を数多く受賞するなど、先人の努力によって品質向上が図られ、上質な煎茶として「川根茶」の名声は全国に知られるようになりました。平成17年9月、国の地方分権と財政危機などに対応し、地域のさらなる発展を目指して旧中川根町と旧本川根町が合併し、川根本町が誕生しました。

3 人口・世帯数

■高い高齢化率

住民基本台帳によると、平成27年3月31日現在の本町の人口は7,643人、世帯数は2,957世帯、平均世帯人員は2.58人/世帯で、人口及び平均世帯人員は年々、減少傾向にあります。年齢階級別人口は年少人口が7.2%、生産人口が47.9%、高齢人口が44.9%で、少子高齢化が進んでおり、高齢化率44.9%（高齢人口）は県内でも西伊豆町に次ぐ高さとなっています。



注) 平成17~23年までは外国人を含まない。

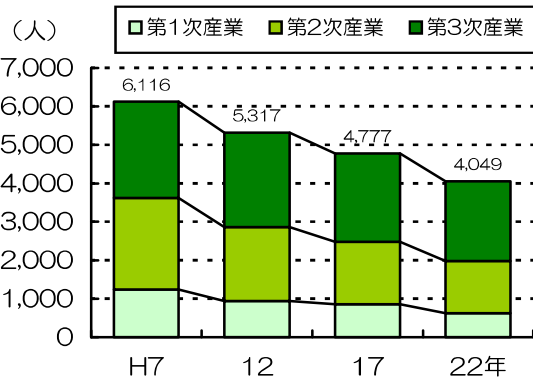
【資料:住民基本台帳】

4 産業

■比較的高い第1次産業の比率

産業就業人口は第1次産業が15.6%、第2次産業が33.4%、第3次産業が51.0%となっており、第1次産業の占める割合が比較的高いことが特徴です。

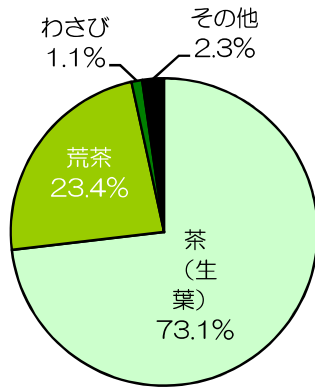
産業別就業人口の推移は、人口の減少と同じく、大きく減少しています。



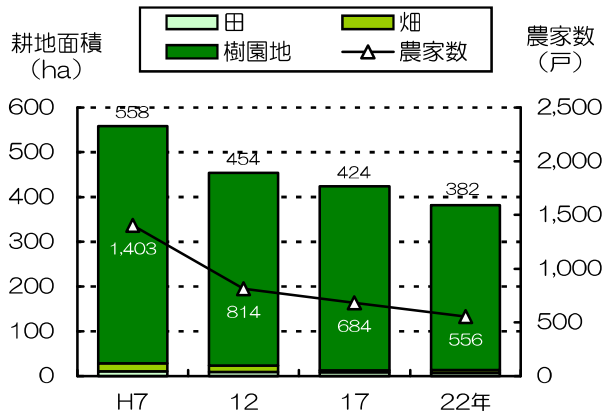
産業別就業人口（15歳以上）の推移
【資料：国勢調査報告】

■農業産出額の95%を占めるお茶

本町の特産物であるお茶は、農林水産大臣賞や産地賞をはじめ数々の輝かしい賞を受賞するなど、全国的に知られている「川根茶」の産地であり、農業産出額はお茶（生葉、荒茶）が全体の約95%を占めています。しかし、近年では過疎化や兼業化が進み、農業従業者の高齢化や担い手不足が深刻な問題となっています。



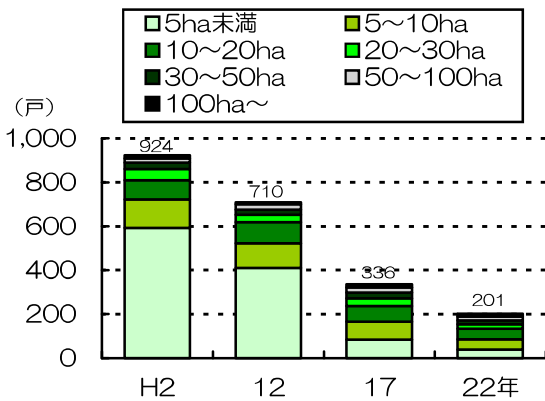
農業産出額の内訳（平成18年）
【資料：平成18年静岡県生産農業所得統計】



耕地面積と農家数の推移
【資料：静岡県農林水産統計年報】

■人工林の約84%が伐採適期

本町の面積の約94%（46,590ha）が森林で、そのうち約58%が国有林、42%が民有林です。民有林の人工林の割合は約71%となっています。人工林の約84%が41年生以上と資源として成熟しており、積極的な利用が望まれています。



林家数の推移
【資料：世界農林業センサス・静岡県統計書】

■県内初のFSC森林認証の取得

本町では、町有林と一部の林家で組織する森林管理グループ「F-net 大井川」を結成し、森林管理の適正化と林業の再生を目指して、平成20年3月にFSC森林認証を取得しました。平成26年度までに認証を取得した森林は約1,593haですが、これは民有林全体の約8%に留まっています。

■減少する林家数

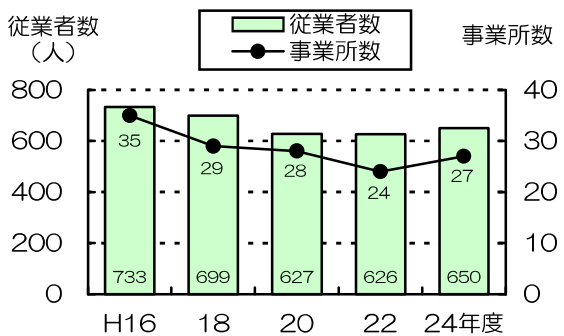
林業はかつて非常に盛んでしたが、若者の流出や材価低迷などによって林家数は年々減少しており、平成22年は201戸となっています。本町の林家の多くは茶業を主体として兼業的に林業を実施しています。さらに、急傾斜地等の作業条件の厳しい森林が多いこと、林道整備や機械化の遅れ、後継者不足、林業労務者の高齢化などが深刻な課題となっています。

■大井川本支流に設定されている漁業権

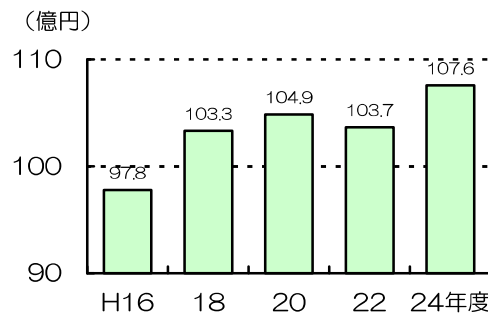
大井川本支流には、アユ、アマゴ、ウナギ、ニジマスの漁業権が設定されており、多くの遊漁者に利用されています。

■精密機械器具・飲料などを中心とした製造業

本町の平成24年の事業所数(4人以上)は27、従業者数は650人、製造品出荷額等は107.5億円です。町内には少数ながら精密機械、電気機械、製茶(仕上茶製造工場)等の企業が立地しており、製造品出荷額は精密機械器具、飲料などが多くなっています。



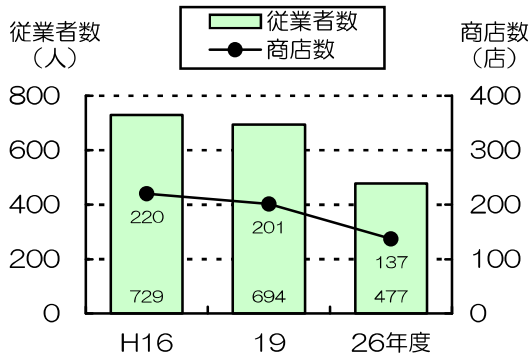
事業所数と従業者数の推移 (4人以上)
【資料: 工業統計調査報告書】



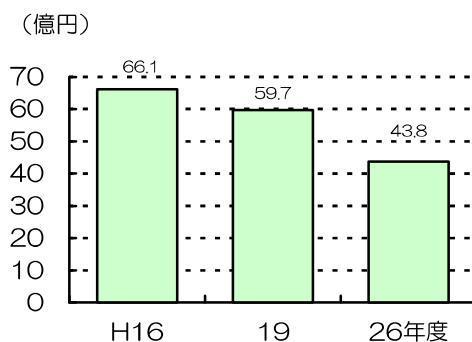
製造品出荷額の推移 (4人以上)
【資料: 工業統計調査報告書】

■小規模店舗の多い商業

本町の平成26年の商店数は137、従業者数は477人、年間販売額は43.7億円です。商店数、従業者数、年間販売額はいずれも減少傾向となっています。町内には大型店舗がなく、小規模店舗が多いことが特徴です。



商店数と従業者数の推移
【資料: 商業統計調査報告書】

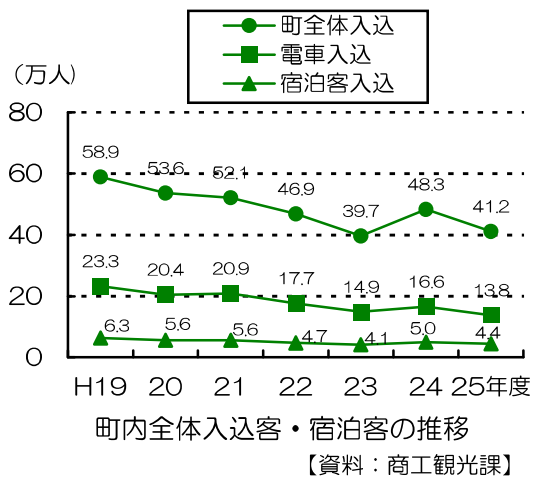


年間商品販売額の推移
【資料: 商業統計調査報告書】

■年間 41.2 万人が訪れる観光のまち

本町は、全域が南アルプスコユネスコエコパークに登録されているほか、本州唯一の原生自然環境保全地域がある大井川源流部、南アルプスの最南峰である光岳、流域の美しい渓谷、山犬段のブナの原生林や大札山・外森山のアカヤシオ・シロヤシオなどの自然環境に恵まれています。また、寸又峡や接岨峡などの温泉、SLやアプト式鉄道、素晴らしい星空が観察できる三ツ星天文台など、さまざまな観光資源があります。なお、平成25年に本町を訪れた観光客数は約41.2万人、宿泊客は約4.4万人でした。

観光は、地域活性化の有力な手段として、全国各地でその振興が図られていますが、本町でもお茶や温泉、森林などの豊かな地域資源を活かした交流人口の増加を図る取り組みが進められています。



5 交通

■交通路として利用されてきた大井川

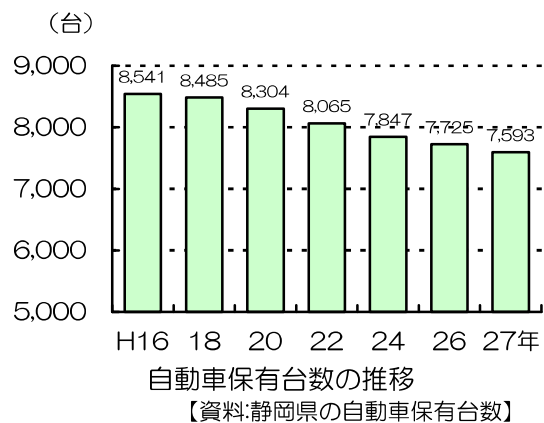
かつてから大井川は、山奥の巨木を川に流して平野に運ぶための交通路でした。木材を組んで上流から下流に流送する「筏流し」や、木材一本一本をばらばらに流送する「バラ狩り」などは、明治末期から昭和初期まで行われていましたが、発電用ダムの建設で川が堰き止められたため、姿を消しました。

また、江戸時代、幕府の方針で大井川に架橋と通船が禁じられていましたが、明治3年(1870年)になると島田や金谷、千頭方面に「高瀬船」が通じ、人々の重要な生活の足となりました。大正11年(1922年)にはプロペラ船も登場しています。昭和6年(1932年)に大井川鐵道が金谷-千頭間に開通するとともに、高瀬船も役割を終えました。

■減少している自動車保有台数

本町への広域的なアクセスルートとしては国道362号、国道473号、主要地方道・川根寸又峡線、一般県道・接岨峡線などがあります。

本町の自動車保有台数は、平成16年以降減少しています。



■住民の足や観光資源としても貴重な大井川鐵道

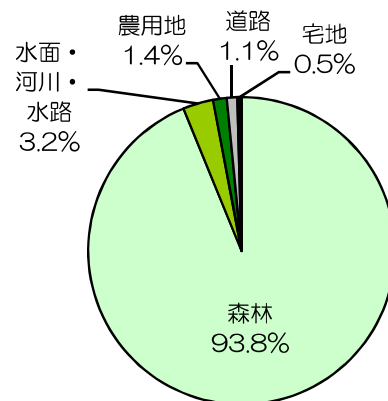
鐵道としては、JR 金谷駅と井川駅を結ぶ大井川鐵道があり、町内には 19 の駅が存在します。所要時間は金谷駅から千頭駅までが約 70 分となっています。大井川鐵道の利用者は減少傾向にありますが、地域の児童・生徒や高齢者の足として重要な役割を果たしています。また、金谷駅から千頭駅間は電車以外に SL が営業運転されており、千頭駅から井川駅間は南アルプスあぶとラインとして、アプト式鐵道が運転されています。これらの SL やアプト式鐵道は来訪者から人気があり、観光資源としても貴重な存在となっています。

バス路線としては、千頭駅と寸又峡温泉を結ぶ大井川鐵道の路線バスや、町内各集落に連絡する町営バスが運行されています。

6 土地利用

■町域の約 94%を占める森林

平成 19 年の土地利用区分別面積をみると、森林（93.8%）が最も多く、農用地や宅地などは、いずれも 1%前後とわずかです。



土地利用区分別面積（平成 19 年）
【資料：国土利用計画（川根本町計画）参考資料】

7 法指定状況

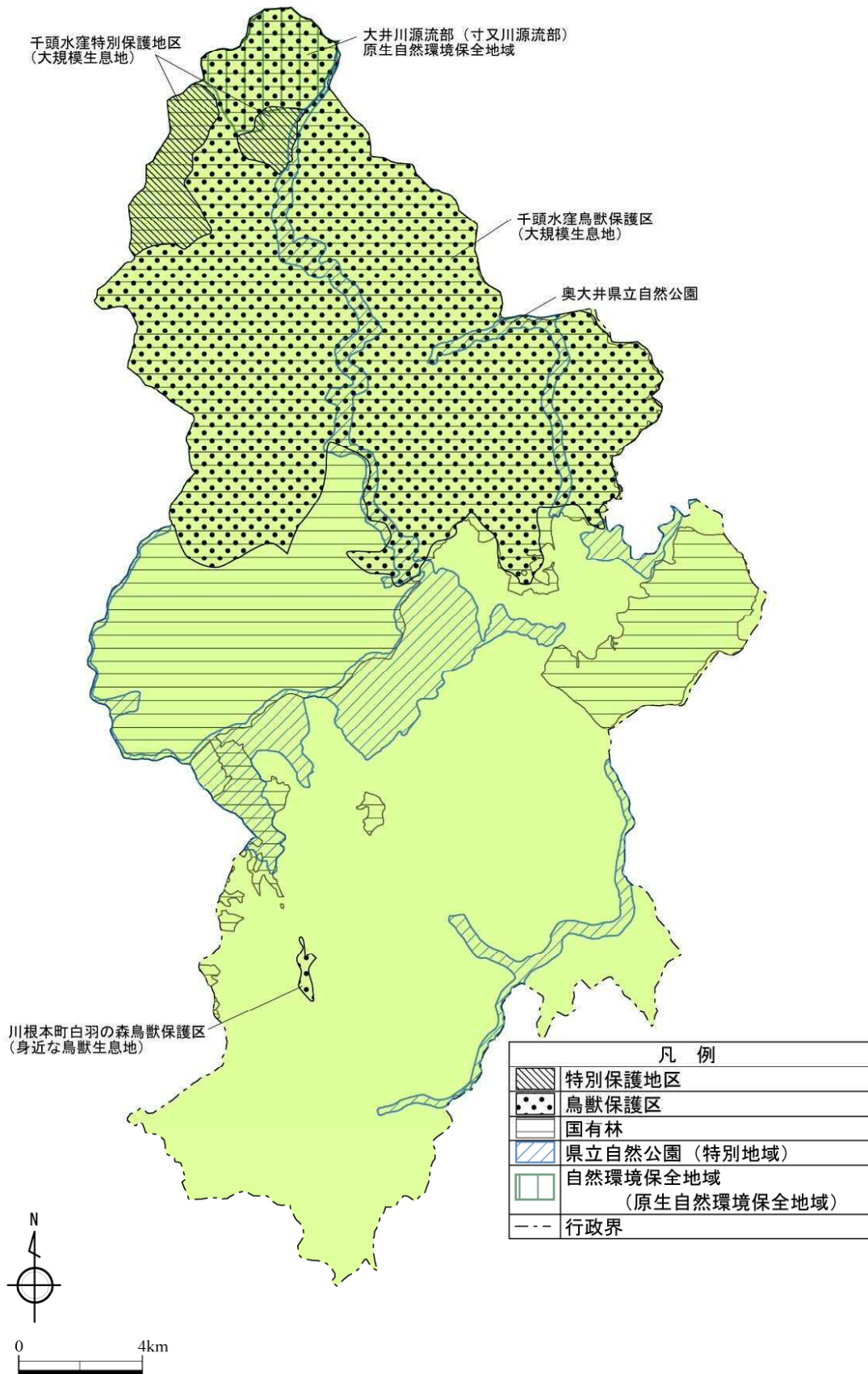
■本州唯一の原生自然環境保全地域

本町には豊かな自然が残っていることから、本州唯一の原生自然環境保全地域や奥大井県立自然公園、鳥獣保護区及び特別保護地区などの地域指定がされています。

本州唯一の原生自然環境保全地域

本町の大井川源流部の寸又川上流は、自然環境保全法に基づく原生自然環境保全地域に指定されています。このエリアは、人の活動によって影響を受けることなく原生状態を維持している地域であり、日本の自然保護地域制度の中で最も厳しい保護規制が行われています。全国では 5 地域、合計 5,631ha が指定されていますが、本州は大井川源流部だけです。ちなみに他の 4 地域は、遠音別岳（北海道）、十勝川源流部（北海道）、南硫黄島（東京都）、屋久島（鹿児島県）です。





環境関連法令地域指定図

【資料：静岡県土地利用基本計画 ほか】

第2節 自然環境

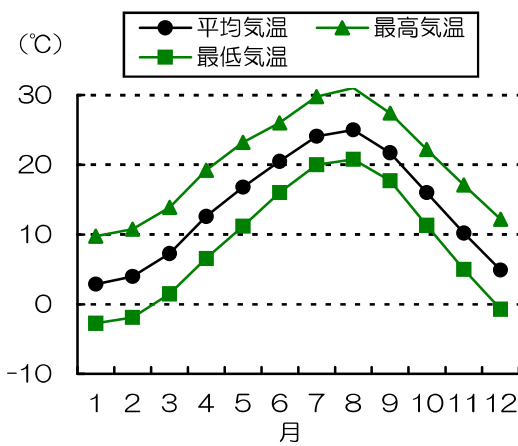


1 気象

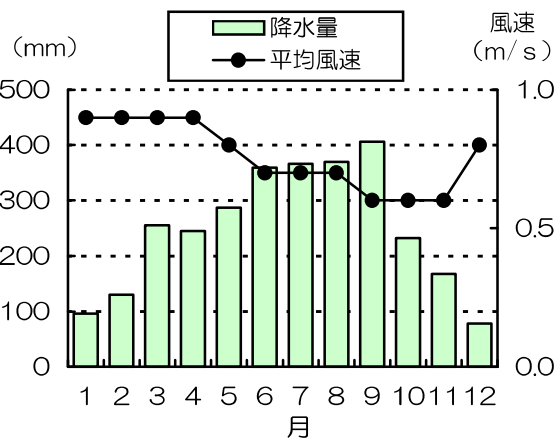
■気温年較差や日較差が大きい地域

本町は太平洋岸式気候に属し、夏は太平洋の高温多湿な空気が吹き込むため雨が多く、冬には北寄りの季節風の影響により、空気は乾燥して少雨となります。平年値（1981～2010年）の平均気温は13.8℃で、気温年較差や日較差が大きい地域です。年間降水量は約3,000mmで、梅雨（6月）から台風（10月）の時期が多くなっています。

平均風速は0.8m/sと比較的弱く、冬季に風が強くなります。また、冬季の積雪は少ないものの、氷点下になることが多くあります。



月別の気温（平年値）
注）測定地は川根本町（アメダス地点）。
【資料：気象庁ホームページ】



月別の降水量と風速（平年値）
注）測定地は川根本町（アメダス地点）。
【資料：気象庁ホームページ】

気象概要（月別）

月	1981～2010年				
	平均気温 (°C)	最高気温 (°C)	最低気温 (°C)	降水量 (mm)	平均風速 (m/s)
1月	2.9	9.8	-2.7	95.9	0.9
2月	4.0	10.8	-1.9	130.3	0.9
3月	7.3	13.9	1.5	255.5	0.9
4月	12.6	19.2	6.6	244.8	0.9
5月	16.8	23.2	11.2	287.0	0.8
6月	20.5	26.0	16.0	359.3	0.7
7月	24.1	29.8	20.0	366.7	0.7
8月	25.0	31.0	20.8	369.8	0.7
9月	21.7	27.4	17.7	406	0.6
10月	16.0	22.2	11.3	232.5	0.6
11月	10.2	17.1	5.0	167.5	0.6
12月	4.9	12.2	-0.7	78.3	0.8
年間	13.8	20.2	8.7	2,988.3	0.8

注）測定地は川根本町（アメダス地点）。 【資料：気象庁ホームページ】

2 地形・地質

■大部分を占める山地の地形

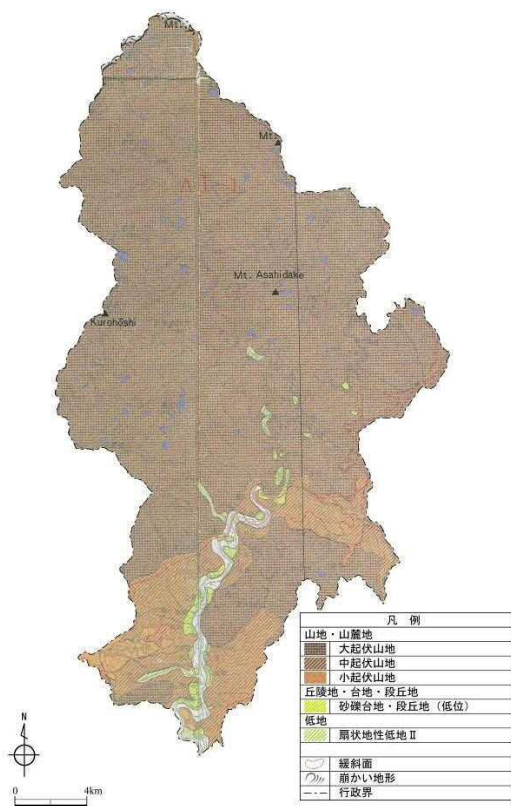
本町の地形は、山地が97%を占めており、標高差は2,400m以上、最高地点は光岳(2,592m)です。北部は大井川本流及び寸又川流域にある赤石山地南部にあたり、川は峡谷と曲流をなし、森林美と渓谷美をもっています。千頭付近はやや川幅が広くなり、低地と段丘・高位平坦面に集落は立地しています。南部は大井川の東側が下泉河内川流域山地、西側が榛原川・長尾川・境川流域山地となり、川底の浸食が進んで崩壊地も多く分布します。徳山・上長尾・下長尾地区は河岸段丘、旧河道、小扇状地、河谷低地など多彩な地形が見られます。

■約8,000～5,000万年前の堆積岩からなる地質

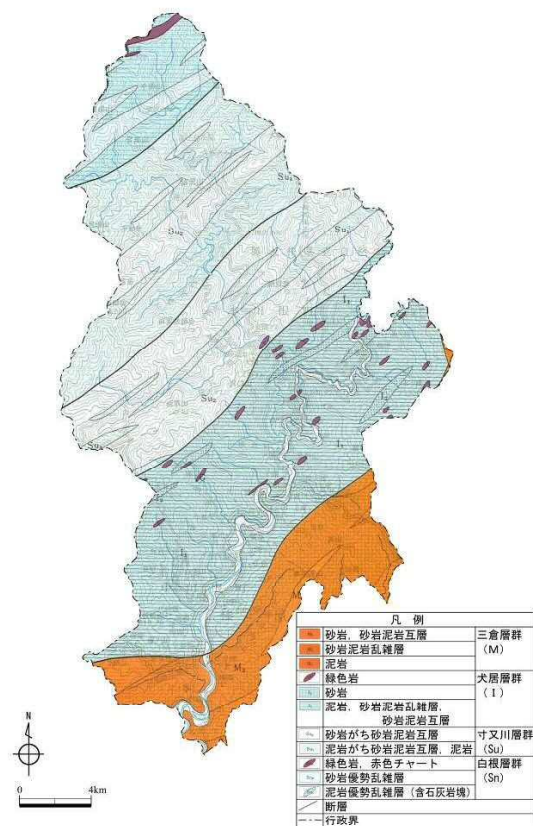
本町の地質は、「四万十帯」と呼ばれる中生代後期白亜紀(約8,000万年前)から新生代古第三紀(約5,000万年前)にかけての堆積岩からなります。砂岩泥岩の互層で褶曲を受けて割れ目が発達し、さらに標高が高く気温差が大きいことから風化浸食が顕著です。降水量が多いことから崩壊地の拡大が大きく、生産された土砂は山腹や川床に堆積し、下流へ流出しています。

北部は緑色岩や赤色チャートを含む泥岩・砂岩からなる「白根層群」、砂岩を主とする「寸又川層群」、砂岩泥岩互層の「犬居層群」「三倉層群」が北東-南西の走向で帯状に配列します。風化作用や構造運動による破砕作用が進んで山地崩壊が多い地域でもあります。

南部は砂岩泥岩互層となる「寸又川層群」や「犬居層群」、泥岩、砂岩、乱雑層からなる「三倉層群」の地層が分布します。北東南西方向の帯状配列と構造をもち、蛇紋岩も点在します。



地形区分図
【資料：静岡県土地分類図付属資料】



地質図
【資料：静岡県地質図】

3 河川・ダム・湧水・温泉保養地

■穿入蛇行が特徴的な一級河川・大井川

町内の河川には、一級河川の大井川や準用河川・普通河川などがあります。

本町の中央を二分する形で南北に流れている大井川は、静岡県・長野県・山梨県の県境にある間ノ岳（標高3,189m）を源とし、駿河湾に注ぐ河川延長168km、流域面積1,280km²の一級河川です。大井川は、山間部でも流路が曲流している「穿入蛇行」という地形が見られ、安倍川や天竜川には見られない特徴のひとつになっています。この地形は赤石山地の著しい隆起のため、河川の流路に地質構造が関与してできたものです。また、河岸段丘がよく発達する河川でもあり、段丘面に多くの集落が形成されています。

一級河川・準用河川一覧

種別	河川数	河川名
一級河川	16	大井川、川根境川、下泉河内川、中津川、川根長尾川、水川川、榛原川、小長井河内川、寸又川、関ノ沢川、横沢川、栗代川、大間川、平野沢、湯沢、奥湯沢
準用河川	21	物がし沢川、杉沢川、桃沢川、田原沢川、柿間沢川、神谷沢川、杓列沢川、ミノ上沢川、清水沢川、坂京河内川、三ツ野沢川、神光寺沢川、筒沢川、椿沢川、沢奥沢川、門前川、大間沢川、本沢川、幡住川、幡住川派川、島沢川

注) 町内に二級河川はない。

【資料：静岡県河川指定調書】

一級河川の河川延長・流域面積

水系名	支川名			河川延長 (m)	流域面積 (km ²)		
	第1次	第2次	第3次		支川流域	自己流域	計
一級河川 大井川	大井川			168,290	778.99	501.01	1,280.00
	川根境川			3,000		13.14	13.14
	下泉河内川			1,800		17.20	17.20
	中津川			700		3.64	3.64
	川根長尾川			2,000		16.99	16.99
	水川川			1,100		6.75	6.75
	榛原川			1,000		24.33	24.33
	小長井河内川			3,200		14.09	14.09
	寸又川			16,570	90.57	162.94	253.51
			横沢川	2,200		9.01	9.01
			栗代川	4,500		28.37	28.37
			大間川	4,400	3.39	47.18	50.57
			湯沢	300		1.19	1.19
			奥湯沢	300		2.20	2.20
			平野沢	300		2.62	2.62
	関ノ沢川			3,000		28.67	28.67

【資料：静岡県の河川便覧】

■水量の減少や水の濁りが問題になっている大井川

大井川はその昔、筏流しや水運、漁業など町民生活と密接な関わりがありましたが、ダムの建設や交通網の整備、ライフスタイルの変化により、現在ではその関わりが薄らいでおり、水量の減少や水の濁りなどの問題も指摘されています。

■「水の郷百選」「静岡県のみずべ100選」に選定されている大井川

川に関する百選認定として、「水の郷百選（水と緑の文化をはぐくむ）」（国土交通省）や「静岡県のみずべ100選」にも選ばれています。

本町の河川に関する百選認定状況

項目	選定地点	概要
水の郷百選（水と緑の文化をはぐくむ）（国土交通省）	「川霧沸き立つグリーンゾーン・かね郷」（川根本町・島田市）	大井川に清流を復活させるなど、河川環境の保全に積極的に取り組んでいる。大井川の川霧による高品質のお茶の生産も盛んであり、「流したい」などの伝統行事も伝承・保存されている。
静岡県のみずべ100選（静岡県）	大井川・塩郷堰堤付近	塩郷堰堤の付近には、長さ220mの大吊橋や松島グリーンコースと呼ばれるハイキングコースなどがあり、川の景色を堪能できる。
	大井川・レインボーブリッジ付近	日本唯一のアプト式鉄道の奥大井湖上駅両側にあるレインボーブリッジ。眼下に広がる眺めは素晴らしく、大井川水系の独特の緑色の水とともに美しい水辺を形成。
	寸又川・夢の吊橋付近	寸又川を代表する夢の吊橋は、美しい渓谷に架けられた90mの吊橋。水に映る景色は季節ごとに趣を変え、大自然の魅力をありのままに伝えてくれる。

【資料：水の郷百選、静岡県のみずべ100選】

■ダムが多いまち

本町には主要なダムとして長島ダム、大井川ダム、千頭ダム、大間ダム、寸又川ダム、境川ダムの6つのダムがあります。長島ダムは多目的ダムで、洪水調節、流水の機能の維持、かんがい、水道用水の供給を目的としています。長島ダム以外は発電を目的にしたダムです。

なお、久野脇にある塩郷堰堤は堤高3.2mの水力発電用取水ダムであり、一般的には「塩郷ダム」と呼ばれていますが、河川法上におけるダムの定義である15.0mに満たないため、堰として扱われています。

これらのダムは発電や洪水調節など、私たちに多くの恩恵を与えていると同時に、河川流量の減少や河床の上昇、ダム湖への堆積土砂、流出土砂の減少による海岸浸食などが大きな問題となっています。



長島ダム

町内のダム一覧

河川名	ダム名	形式	目的	堤高 (m)	堤頂長 (m)	流域面積 (km ²)	総貯水容量 (km ³)	竣工年
大井川	長島ダム	重力式	多目的	112.0	292.0	534.3	78,000	2002年
	大井川ダム	重力式	発電	33.5	65.8	537.0	503	1936年
寸又川	千頭ダム	重力式	発電	64.0	177.7	132.0	4,950	1935年
	大間ダム	重力式	発電	46.1	106.9	201.6	1,519	1938年
	寸又川ダム	重力式	発電	34.9	58.8	240.9	987	1936年
境川	境川ダム	重力式	発電	34.2	83.8	11.96	1,173	1943年

注) 長島ダムは、洪水調節、不特定用水、かんがい、上水などを目的とした多目的ダムである。

【資料：静岡県の河川便覧】

■減ってきている湧水

「静岡県のわき水マップ（湧水レッドデータ）」によると、本町では8箇所の湧水がリストアップされており、そのうちの6箇所では消滅危惧レベル4（昔はもっと多かった）となっています。このうち、徳山の「ときどんの池」ではボランティアグループによって水辺の整備・保全が行われています。また、「小長井の湧水」は昔から地元の人々の生活水として使われ、今も洗い場跡が残っています。かつては周辺にも湧水がたくさんありましたが、安定して残っている場所は少なくなりました。



ときどんの池

町内の湧水とその消滅危惧レベル

消滅危惧レベル（レベル1～5）	名称・通称
レベル2（通年で湧水が見られる）	たいざ川（ときどんの池）、千頭2（小長井の湧水）
レベル4（昔はもっと多かった）	水川1、田野口1、梅地1、奥泉、千頭1、井の上清水

注）消滅危惧レベル 1：通年で多量の湧水 2：通年で湧水が見られる

3：季節で減る時季がある 4：昔はもっと多かった 5：現在は枯渇している

【資料：静岡県のわき水マップ（湧水レッドデータ）、静岡県の湧き水100】

■4つの温泉保養地

町内には、接岨峡温泉、寸又峡温泉、千頭温泉、白沢温泉の4つの温泉保養地があります。

温泉は「火山性の温泉」と「非火山性の温泉」に大別できますが、本町の温泉は周辺に火山がないため「非火山性温泉」と考えられます。地下では一般的に100m毎に約3℃地温が上昇するといわれています。例えば、地表の温度が15℃の時、地下1,000mの地温は45℃となります。降水が地中にしみ込んで地下水となり、この地下水が地熱を熱源として温められ、断層などの地下構造や人工的なボーリングなどによって地表に湧き出してきたものが、非火山性温泉です。本町の温泉もこのようなメカニズムで形成されているものと考えられます。

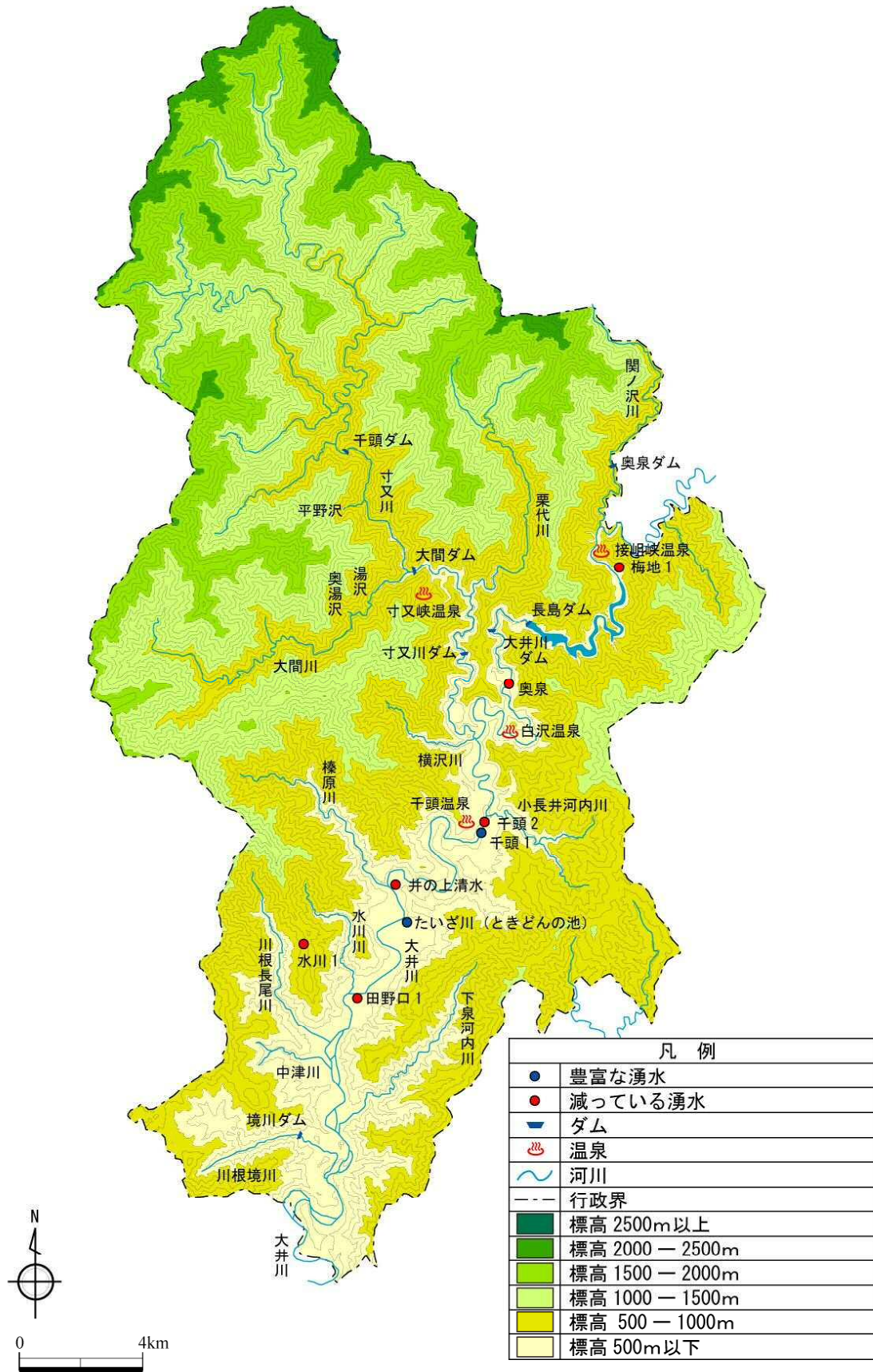


寸又峡温泉

町内の温泉保養地とその特性

名称	特性
接岨峡温泉	泉質はナトリウム炭酸水素塩冷鉱泉で皮膚の分泌を促進し、清浄にすることから「若返りの秘泉」と呼ばれている。
寸又峡温泉	泉質は単純硫黄温泉で、湯上がりの肌のつるつるすべすべとした感じが特徴。その効用から「美女づくりの湯」として知られている。
千頭温泉	平成9年に源泉が湧出した新しい温泉で千頭駅周辺の旅館に引湯されている。泉質はナトリウム炭酸水素塩泉。
白沢温泉	泉質はナトリウム炭酸水素塩冷鉱泉で、神経痛・慢性消化器病・冷え性・疲労回復・健康増進・やけど等に良いとされている。

【資料：商工観光課】



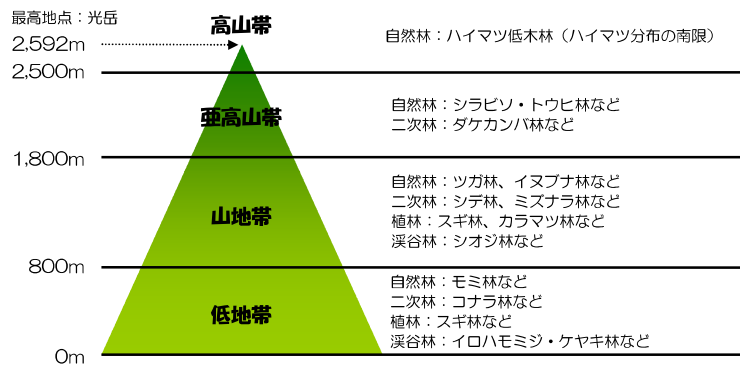
河川・ダム・湧水・温泉位置図

【資料：静岡県の河川便覧、静岡県のわき水マップ、静岡県の湧き水100 など】

4 動植物の分布

■低地帯から高山帯の多様な植生

本町の約 97%を占める山地は、大部分が森林であり、人の手がほとんど入っていない自然林のほか、人との関わりの中で成立した二次林や植林などが分布します。また、本町は標高約 200～2,600m と垂直的な広がりをもっているため、低地帯、山地帯、亜高山帯、高山帯の 4 つの主要な植生帯がすべて分布し、各植生帯特有の自然林が山地や河川に残されています。特に高標高地には自然林がまとまって残されており、大井川源流部は本州唯一の原生自然環境保全地域に指定されています。



■高山帯から低地帯の植生

高山帯に位置する本町の最高地点・光岳（標高 2,592m）には、高山帯で最も代表的な自然林であるハイマツ低木林が分布し、ハイマツの群落として南限にあたります。

亜高山帯（標高約 1,800～2,500m）には、低標高地に比べると自然林が多くみられ、シラビソ、コメツガ、トウヒなどの常緑針葉樹林が主体となっています。一方、森林の伐採によって生じた二次林として、伐採後にいち早く侵入してくるダケカンバやミヤマウラジロイチゴなどからなるタケカンバ林などがあります。



高山帯のハイマツ低木林

山地帯（標高約 800～1,800m）になると、自然林のほかに二次林や植林が多くなってきます。自然林は常緑針葉樹林のツガ林や落葉広葉樹林のイヌブナ林がよく目につきます。二次林は落葉広葉樹林のシデ林やミズナラ林が主となっています。植林はスギ林などの他に、カラマツ林もみられます。河川の渓谷にはシオジ林が局所的に分布し、渓谷林として美しい景観です。

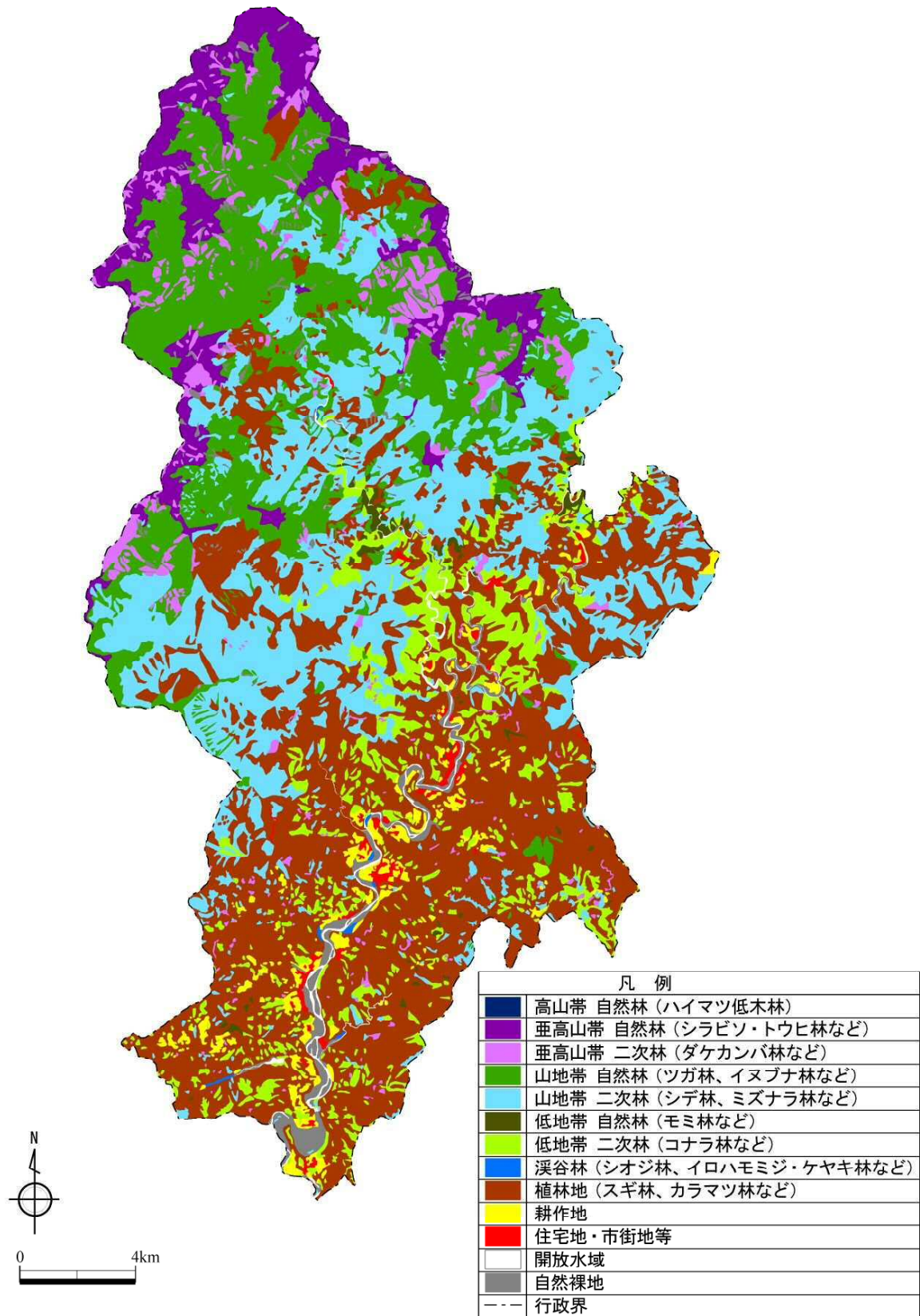
低地帯（標高約 800m以下）になると、自然林は少なくなりコナラ林などの二次林やスギなどの植林が大部分を占めるようになります。自然林は少ないものの、尾根部には常緑針葉樹林のモミ林が比較的に残っています。また、河川沿いには渓谷林としてイロハモミジやケヤキの樹林がみられます。

■段丘や低地の植生

大井川に沿って細長く分布する段丘・低地は、ほとんどが住宅地や耕作地などに利用されています。耕作地は茶畑が主ですが、水田も小規模ながら南部に点在しています。

■河川周辺の植生

大井川は急勾配で河道がきわめて不安定な河川であるため、河川敷に砂や礫の自然裸地が広がりますが、やや安定した所では冠水や急流に強いヤナギの高木林、ツルヨシ草地などの河辺自然植生がみられます。



植生図

【資料：自然環境情報 GIS データ 第2-5 回自然環境保全基礎調査・現存植生調査】

■注目すべき植物群落・植生

環境省の「特定植物群落」「現存植生図における自然植生」、静岡県「特定植物群落」「静岡県自然環境基本調査における調査対象社寺林」などから、本町の注目すべき植物群落・植生を選定しました。

その結果、原生自然環境保全地域における森林植生をはじめ、多くの特定植物群落や社寺林などが注目すべき植物群落および植生等としてあげられます。

本町の注目すべき植物群落及び植生等（1）

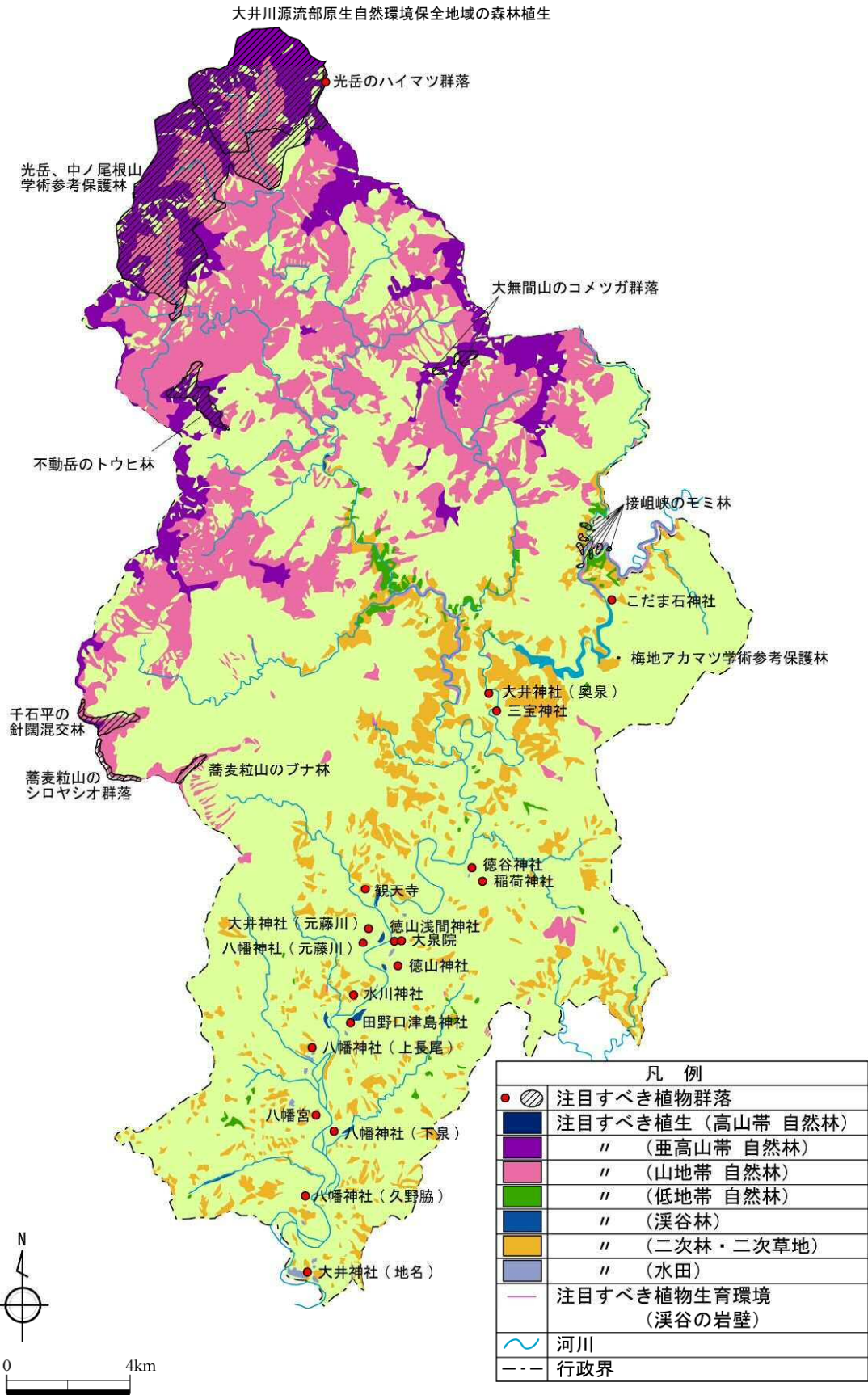
群落・植生の名称	概要
1 梅地アカマツ 学術参考 保護林*1	胸高直径70cm、樹高30mを超える見事なアカマツの樹林で、周囲の若いスギ植林の中に、そこだけ異質な世界のように見える。大井川流域で最も樹木が大きく立派なアカマツ林として貴重である。
2 接岨峡の モミ林	接岨峡の急峻な斜面の尾根上にカシ類を交えたモミ林が顕著な森林景観を作っている。比較的若い林分とみられるが、密度や規模において静岡県でも有数のものである。
3 蕎麦粒山の ブナ林	蕎麦粒山から山犬段にかけての帯にはブナの巨木が繁り、原生的な世界が広がっている。ウラシロモミヤツガの針葉樹が混交し、シナノキ、オオイタヤメイゲツなども多く、南アルプスらしい混交林としてのブナ林となっている。
4 蕎麦粒山の シロヤシオ群落	蕎麦粒山から鋸山へ至る稜線部はトウヒ、シナノキ、ブナ、カエデ類の多い原生林で被われており、林内には白い花を咲かせるシロヤシオの巨木が群生し、開花期はすばらしい山岳風景となる。
5 大無間山の コメツガ群落	大無間山の西側稜線に広がるコメツガの純林で、コメツガの巨大なものは胸高直径1mを超える。
6 不動岳の トウヒ林	不動岳山頂部の亜高山帯には、トウヒの原生林が純林を成して繁っている。その中でも不動岳山頂北側にある平坦地のトウヒ林は、樹高30mに達する巨木群で、すばらしい森林景観をつくっている。
7 大井川源流部 原生自然環境 保全地域の 森林植生	本州で唯一の原生自然環境調査保全地域に指定されている地域で大井川源流部に位置する。面積は1,115haで、太平洋岸における山地帯から高山帯に至る典型的な垂直分布が見られる。広大な寸又川流域の原生林の一角をなす貴重なものとして厳重な保護が図られている。
8 千石平の 針広混交林	広い面積を有する平坦な尾根にシラビソ、トウヒなどの常緑針葉樹を主とし、ダケカンバ、ブナなどの落葉広葉樹が混生する原生林が繁っている。樹木はいずれも巨木である。
9 光岳、中ノ尾根 山学術参考 保護林*2	光岳から寸又川右岸の2,000mを超える山々を連ねる一帯で、大井川源流部原生自然環境保全地域を含む。自然が原生的な状態で残っている地域で、山地帯から高山帯に至る典型的な垂直分布が残されている。
10 光岳の ハイマツ群落	高山帯の常に強風が吹き付ける風衝地に形成するマツ科の匍匐（ほふく）性常緑針葉樹ハイマツの群落で、イザルガ岳（静岡市）を含む光岳一帯に成立し、ハイマツの群落として南限にあたる。
11 大井神社 (地名)	旧地名保育園向かい側の小高い丘の社寺林。樹高15～20m、胸高直径30cm程のスギ・ヒノキの植林で、神殿の近くには比較的太い（胸高直径30～60cm）スギが多い。西斜面にはシイが多い。
12 八幡神社 (久野脇)	塩郷堰堤近くの小高い丘にある社寺林。スギ、ヒノキの植林が多い。樹高は20m前後で、胸高直径は20～30cmのものが多い。
13 八幡神社 (下泉)	下泉にある社寺林で、樹高20～25m、胸高直径20～30cm程のスギが広く植林されている。神殿と石段の近くには胸高直径60～70cmのスギがある。
14 八幡宮	下長尾にある社寺林で、神殿の横から後方には樹高25～30mのスギが10本ほど立ち、スギのほかはヒノキ、クスノキなどが登り斜面に密生している。
15 八幡神社 (上長尾)	上長尾にある社寺林で、全域スギ、ヒノキの植林である。神殿の前には樹高20～25mのスギが間隔を置いて20～25本立っている。神殿の後方登り斜面の林は密生している。
16 田野口津島 神社	全域スギの植林地で、神殿後方の登り斜面には細いスギが密生しているが、神殿の周囲には大木が10本前後ある。また、神殿に向かって右後方に県指定天然記念物の五本杉がある。
17 水川神社	山腹にあり、茶畑の間を通過して神社の林へと続く。鳥居から神殿までの石段の両側はスギ、ヒノキの植林で本数は多くはないが、どの木も高い（樹高25～30m）。
18 徳山神社	神殿に向かって左側にゆるい下り斜面があり、全域スギの植林地である。神殿と広場の周囲を大きなスギ（樹高30m）が囲んでいる。
19 大泉院	一部スギが植えられているが、スダジイ、アラカシ、クスノキ、イチイガシ、ケヤキ、カヤ、ツブラジイを中心とした常緑広葉樹林である。山門の右端に樹齢400年以上という大きなスギ（俗称：天狗杉）がある。

本町の注目すべき植物群落及び植生等（2）

群落・植生の名称	概要
20 八幡神社 (元藤川)	万世橋を渡り、すぐ南の小高い丘に繁る社寺林。特に大きな木はなく太いものでも胸高直径30～40cmであるが、種類は雑多でスギ、ヒノキ、ツガ、スタジイ、ウラジロガシ、ツブラジイ、モミ、ウラジロモミなどが密生している。
21 大井神社 (奥泉)	奥泉の社寺林で、鳥居をくぐり石段を登る右側には竹林がある。左側にはカシ類が優占する樹高20～25mの樹林で、アラカシ、イチイガシ、スギ、イヌシデなど種類が豊富である。神殿の前の開けた広場（中学校跡地）の周囲には桜が植えられている。
22 徳山浅間神社	神殿の背後の斜面全域にわたる樹高25～30mのスギ、ヒノキの植林で、シイやアラカシも混生している。神殿の前の左右に2本のスギの巨木（県指定天然記念物）がある。
23 観天寺	本堂の背後は竹林で、それ以外はほとんどスギ植林である。スギ植林は樹高20～30mに及び、本堂に登る石段の両側には樹齢200年程のスギが5～10本ある。
24 稲荷神社	茶畑を前にし、山を背にした小高い丘にある社寺林。ヒノキ植林にやや大きなツクバネガシが混生する。林内にはアセビやミツバツツジなどツツジ科の樹木が優占し、林床にはミツバツツジの芽生えが多い。
25 徳谷神社	樹高25～30mのスギ植林で、林床は植物の種類が非常に多く一面を覆っている。町指定史跡となっている小長谷城址がこの神社にあり、社寺林の中に本丸、二の丸の跡がある。
26 三宝神社	樹高25～30mのスギ植林でツガもみられる。林内にはサカキ、アオキなどが密生している。鳥居をくぐると真正面にスギの大木（胸高直径1.3m）がある。
27 大井神社 (元藤川)	社殿を取り囲む樹高20m程のスギ植林で、スタジイ、ツクバネガシ、イチイガシ、アベマキ、アラカシ、ハリモミ、クスノキなどの常緑広葉樹が多い。
28 こだま石神社	石段を登る両側にある樹高15m程のスギ、ヒノキ植林でツクバネガシが混生している。林内にはツクバネガシやツガの低木が多くみられる。
29 高山帯自然植生	現存植生図の高山帯自然植生。標高2,500m付近以上の高標高地に発達する植生で、本町では高山帯の風衝地で枝を横に這って生育するハイマツの低木林が存在する。
30 亜高山帯自然植生	現存植生図の亜高山帯自然植生。標高1,800～2,500m付近に発達する植生で、本町ではシラビソやオオシラビソ、キタゴヨウなどの常緑針葉樹林が主体となっている。不安定な場所にはダケカンバ林が成立する。
31 山地帯自然植生	現存植生図の山地帯自然植生。標高800～1,800m付近に発達する植生で、本町では山地帯自然植生を代表するブナ林がみられるが、ツガ林が主体をなしている。渓谷には小規模であるがシオジやトチノキなどの渓谷林がみられる。
32 低地帯自然植生	現存植生図の低地帯自然植生。標高200～800m付近に発達する植生で、本町では低地帯の上部に発達するモミ林が多い。渓谷には小規模であるがケヤキやイロハモミジなどの渓谷林がみられる。
33 河辺自然植生	現存植生図の河辺自然植生。洪水や増水により常に不安定な立地条件にある河辺には冠水に強いヤナギなどの群落が発達する。本町では、河川敷にコゴメヤナギの高木林やツルヨシ草地がみられる。
34 二次林・二次草地	現存植生図の低地帯代償植生のうち、薪や肥料など様々な資源を得る場所として維持管理されてきたいわゆる雑木林やススキなどの草地。二次林や二次草地を生育地とし依存する植物が存在するが、生活様式の変化に伴い管理が放棄され、遷移の進行や開発によりこれらの植物の生育が脅かされている。
35 水田	現存植生図の耕作地のうちの水田。本来の目的は食料（米）生産であるが、保水・遊水機能、水質浄化機能、気候の緩和や大地の安定化に寄与し、水生植物や湿生植物の生育を支えている。しかし、稲作の放棄による草地化、埋め立て、水田の乾田化、農薬などにより、水生植物や湿生植物の生育が脅かされている。
36 渓谷の岩壁	接岬峡や寸又峡といった深い谷を刻む渓谷の岩壁は、高い空中湿度に生育する着生ラン、湿った岩場に生育する植物、洪水や乾燥に耐える渓流植物など、渓谷の岩壁特有の植物がみられる。

注) *1,2：旧保護林制度の名称。現在は、*1：植物群落保護林（梅地のアカマツ林）、*2：森林生態系保全地域（南アルプス南部光岳）・植物群落保護林（中ノ尾根山の森林）。

【資料：日本の重要な植物群落（東海版）Ⅰ・Ⅱ、静岡県植物群落—静岡県の自然環境シリーズ、静岡県自然環境基本調査 社寺林調査報告書（中間報告）、自然環境情報 GIS データ 第2-5回自然環境保全基礎調査・現存植生調査】



注目すべき植物群落および植生図

【資料：自然環境情報 GIS データ 第 2-5 回自然環境保全基礎調査・現存植生調査】

■1,874種の植物

本町の植物は1,874種の記録があり、標高差が大きいいため、低地帯から高山帯までのさまざまな植物がみられます。本町は植物地理学でいう「ソハヤキ地区」の東限にあたり、同地区に特有なモチツツジ、イワユキノシタ、ナベワリなどが生育しています。また、地形や人間の関わりに応じて多様な環境が成立するため、それぞれの環境に適応したものが生育し、植物相の種類も豊富です。さらに、本町は接岨峡や寸又峡といった深い谷を刻む渓谷があるため、渓谷の岩壁に生育する着生ランや溪流植物などが本町の植物相を特徴付けているといえます。

本町の観光資源であるアカヤシオとシロヤシオはツツジ科の植物で、山地帯の尾根筋の岩場などに生育します。アカヤシオは4～5月に淡い紅色の花を、シロヤシオは5月～6月上旬に白い花を咲かせ、春から初夏の山を彩ります。

なお、絶滅の可能性のある種として、アゼオトギリやカギガタアオイなど113種が確認されています。



アカヤシオ・シロヤシオ
【川根本町おろくぼからの自然散策ホームページ】

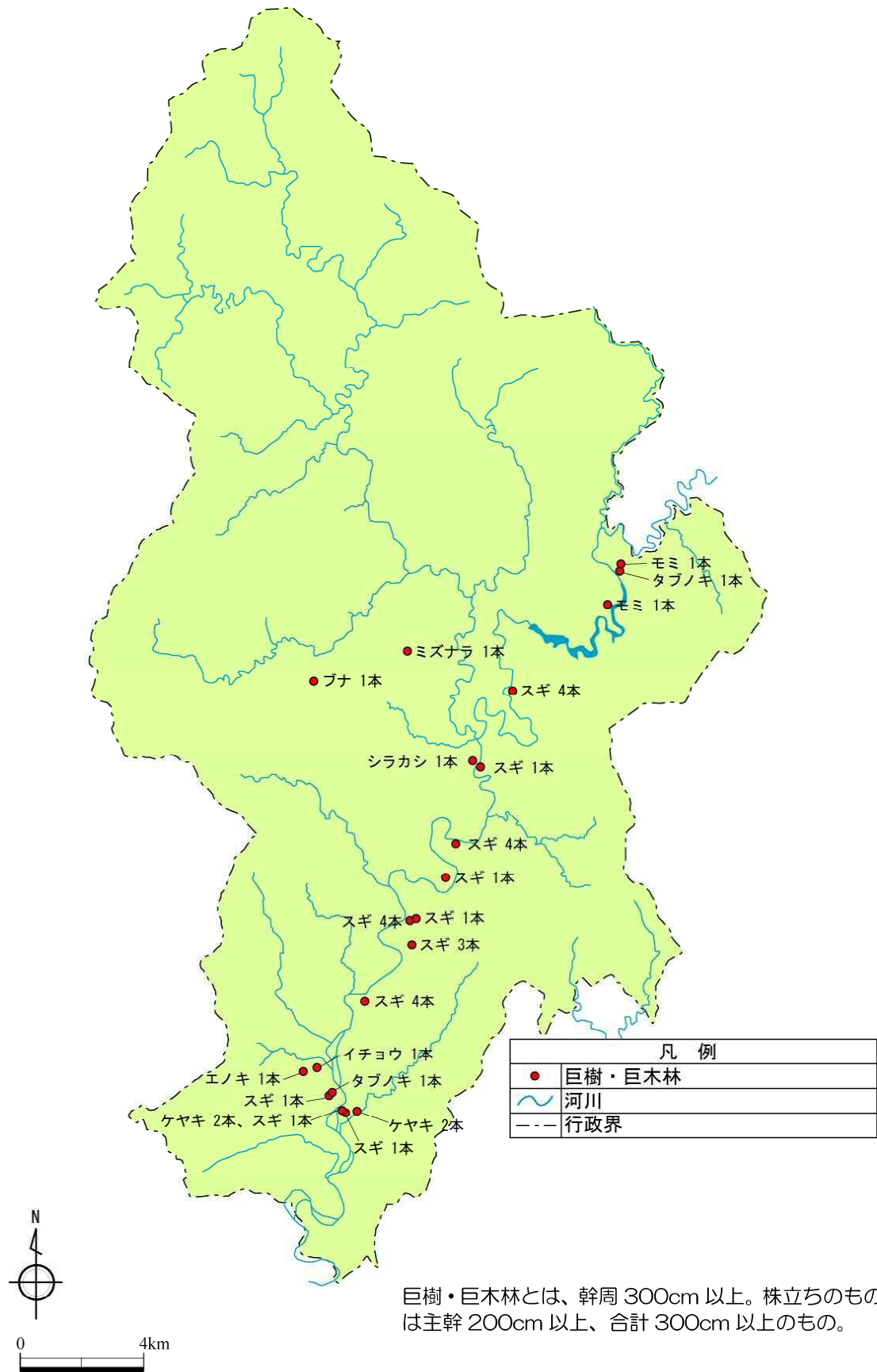
絶滅の可能性のある植物

カテゴリー区分	絶滅の可能性のある植物
絶滅危惧ⅠA類 (CR)	ジンリョウユリ、クソエビネ、アツモリソウ
絶滅危惧ⅠB類 (EN)	ヤマソテツ、クラガリシダ、ミョウギシダ、デンジソウ、オオヤマレンゲ、シロモジ、ヒロハヘビノボラス、ヒツジグサ、アゼオトギリ、ミヤマスマシ、ヒメビシ、ヤマホオズキ、タカネタチイチゴツナギ、シコクヒロハテンナンショウ、タカネナルコ、ハコネラン、フジチドリ、セイタカスズムシソウ、トキノウ
絶滅危惧Ⅱ類 (VU)	スギラン、タキミシダ、ナカミシシラン、ツクシヤブソテツ、タニヘゴ、イナデナダ、テバコワラビ、イワウサギシダ、サンショウモ、ミヤマツチトリモチ、オオビランジ、セツブンソウ、タマカラマツ、カギガタアオイ、エゾハタザオ、クモナズナ、マツノハマンネングサ、ヤシャビシヤク、キンロバイ、エンシュウツリフネソウ、チョウセンナニワズ、サクラスマシ、ホソバハナウド、キョウマルシヤクナゲ、クモイコザクラ、コイワザクラ、シナノコザクラ、キセウタ、ヤマジノタツナミソウ、タヌキモ、ニッコウヒョウタンボク、アキノハハコグサ、ヤナギタンポポ、クモマニガナ、ヤハズトウヒレン、チャボホトトギス、カキツバタ、ヒトツバテンナンショウ、スルガスゲ、ナツエビネ、コアツモリソウ、クマガイソウ、イチヨウラン、スズムシソウ、ウチョウラン、ニョホウチドリ、ツレサギソウ、ヤマトキノウ、マツラン、モミラン、ムカデラン
準絶滅危惧 (NT)	ヤマシヤクヤク、コオトギリ、キバナハナネコノメ、ミズマツバ、スズサイコ、タチキランソウ、アオホオズキ、オオヒキヨモギ、イヌノフグリ、ワタムキアザミ、イズハハコ、カワラニガナ、タカネコウリンカ、ミクリ、マメツタラン、ムギラン、エビネ、セッコク、クロヤツシロラン
現状不明 (N-I)	ヤツガタケシノブ、アオチャセンシダ、ヤマキケマン、キンチャクスゲ
分布上注目種 (N-II)	フジイノデ、ヒメカラマツ、ミカワチャルメルソウ、トウヤクリンドウ
部会注目種 (N-III)	チチブホラゴケ、アオネカズラ、カラハナソウ、サクライラス、ツゲ、キヨスミウツボ、ナベナ、イワシャジン、サワギキョウ、シデシャジン、ヤマアゼスゲ、アケボノシュスラン、ホザキイチヨウラン、アリドオシラン、ヒトツボクロ

注) カテゴリー区分は、静岡県版レッドデータブックの区分に従った。

■38本の巨樹・巨木林

巨樹・巨木林とは、長い年月生き続けてきた古い大きな木や、それらが集まってできた林のことです。この巨樹・巨木林は、樹木・森林の象徴的存在であり、良好な景観の形成や野生動物の生息環境、人々の心のよりどころなど、保護すべき自然として重要です。巨樹・巨木林の現状を把握するための調査が全国で行われており、本町でも38本の巨樹が確認されています。



巨樹・巨木林とは、幹周 300cm 以上。株立ちのものは主幹 200cm 以上、合計 300cm 以上のもの。

巨樹・巨木林位置図

【資料：第4回自然環境保全基礎調査、日本の巨樹・巨木林（平成3年）など】

■2,260種の動物

本町には原生自然環境保全地域や奥大井県立自然公園をはじめとする森林や、大井川の本支流などがあり、2,260種の動物が確認されています。

山地の森林には哺乳類、鳥類、両生類などの動物たちが数多く生息しています。光岳周辺などの高山帯ではオコジョ、ライチョウ、クモマベニヒカゲなど、標高の高い場所に特有の種が生息しています。河川にはヤマトイワナやアカイシサンショウウオなど、県内の限られた場所でしか見られない動物が生息しています。

■40種の哺乳類

標高の高い場所のみに生息するアズミトガリネズミ、ヤチネズミ、オコジョ、山地帯から低地帯でも見られるノウサギ、タヌキ、イタチなどが生息しています。また、クロホオヒゲコウモリ、ヤマネなどの豊かな森林が広がる地域に見られる種や、静岡県内に分布する大型哺乳類の5種（ニホンザル、ツキノワグマ、イノシシ、ホンドリカ、カモシカ）すべてが生息するなど、多種多様な哺乳類が確認されています。なお、絶滅の可能性のある種として、モモジロコウモリやカワネズミなど16種が確認されています。



モモジロコウモリ
(絶滅危惧Ⅱ類)

カテゴリー区分	絶滅の可能性のある哺乳類（過去の文献に記載があるもの）
絶滅危惧Ⅱ類（VU）	モモジロコウモリ
準絶滅危惧（NT）	カワネズミ、コキクガシラコウモリ、キクガシラコウモリ、ムササビ、カヤネズミ
情報不足（DD）	フジホオヒゲコウモリ、クロホオヒゲコウモリ、コテングコウモリ、テングコウモリ、モモンガ、ヤマネ、オコジョ
分布上注目種等（N-Ⅱ）	ミスラモグラ
部会注目種（N-Ⅲ）	ウサギコウモリ、ニホンリス

注）カテゴリー区分は、静岡県版レッドデータブックの区分に従った。

■118種の鳥類

南アルプス周辺の高山帯には特別天然記念物のライチョウや、ホシガラス、イワヒバリ、カヤクグリなど、亜高山帯にはエゾムシクイ、ルリビタキ、コマドリなど、山地帯から低地帯ではウグイス、ホオジロ、エナガ、シジュウカラなどが生息しています。

川原や溪流沿いでは、ヤマセミ、カワセミ、カワガラスが、ダム湖にはオシドリなどが見られます。なお、絶滅の可能性のある種として、ライチョウやヤマセミなど27種が確認されています。



ヤマセミ（絶滅危惧Ⅱ類）

カテゴリー区分	絶滅の可能性のある鳥類（過去の文献に記載があるもの）
絶滅危惧ⅠA類（CR）	イヌワシ、ブッポウソウ、チゴモズ
絶滅危惧ⅠB類（EN）	ミゾゴイ、コノハズク、アカショウビン、サンショウクイ
絶滅危惧Ⅱ類（VU）	トモエガモ、ハチクマ、オオタカ、ハイタカ、サシバ、クマタカ、ハヤブサ、ライチョウ、アオバズク、ヨタカ、ヤマセミ、コサメビタキ
準絶滅危惧（NT）	ヤマドリ、イカルチドリ、アリスイ、オオアカゲラ、サンコウチョウ、ミヤマホオジロ、フクロウ
分布上注目種等（N-Ⅱ）	ノビタキ

注）カテゴリー区分は、静岡県版レッドデータブックの区分に従った。

■23 種の爬虫類・両生類

爬虫類ではトカゲ、シマヘビ、アオダイショウなど、両生類ではモリアオガエル、カジカガエルなどが確認されています。サンショウウオ類では、県内に分布する3種（ハコネサンショウウオ、アカイシサンショウウオ、ヒダサンショウウオ）すべてが確認されています。なお、絶滅の可能性のある種として、アカイシサンショウウオやカジカガエルなど10種が確認されています。



カジカガエル(準絶滅危惧)

カテゴリー区分	絶滅の可能性のある爬虫類・両生類（過去の文献に記載があるもの）
絶滅危惧ⅠB類（EN）	アカイシサンショウウオ
絶滅危惧Ⅱ類（VU）	ヒダサンショウウオ、ハコネサンショウウオ、ニホンアカガエル
準絶滅危惧（NT）	モリアオガエル、カジカガエル
情報不足（DD）	ナガレタゴガエル
分布上注目種等（N-Ⅱ）	トカゲ
部会注目種（N-Ⅲ）	アズマヒキガエル、トノサマガエル

注）カテゴリー区分は、静岡県版レッドデータブックの区分に従った。

■12 種の魚類

魚類の多くはオイカワ、アマゴなど一生を淡水で過ごす純淡水魚で、海と往来する回遊魚はほとんど見られません。大井川本流にはウグイ、シマドジョウ、カワヨシノボリなどが生息し、寸又川の源流部は県内でも数少ないヤマトイワナの生息地となっています。なお、絶滅の可能性のある種として、ヤマトイワナやアマゴなど4種が確認されています。



アマゴ（分布上注目種等）

カテゴリー区分	絶滅の可能性のある魚類（過去の文献に記載があるもの）
絶滅危惧ⅠB類（EN）	アカザ、ヤマトイワナ
分布上注目種等（N-Ⅱ）	アマゴ、カワヨシノボリ

注）カテゴリー区分は、静岡県版レッドデータブックの中部地域の区分に従った。

■2,037 種の昆虫類

南アルプス周辺の森林限界から高山帯にかけてはベニヒカゲ、ミヤマシロチョウ、テカリダケフキバツタなど、亜高山帯ではキベリタテハ、ウラジャノメなど、山地帯ではメスアカミドリシジミ、ヒメキマダラヒカゲなど、低地帯ではウスバシロチョウ、ツマグロヒョウモン、などが生息しています。なお、絶滅の可能性のある種として、クロシジミやテカリダケフキバツタなど20種が確認されています。



テカリダケフキバツタ
(情報不足)

カテゴリー区分	絶滅の可能性のある昆虫類（過去の文献に記載があるもの）
絶滅危惧ⅠB類（EN）	チャマダラセセリ
絶滅危惧Ⅱ類（VU）	クロシジミ、オオチャバネセセリ
準絶滅危惧（NT）	コサナエ、ミヤマシジミ、オオミスジ、クロヒカゲモドキ
情報不足（DD）	テカリダケフキバツタ、オオチャイロハナムグリ、ヒゲコガネ
分布上注目種等（N-Ⅱ）	コキマダラセセリ、ウスイロオナガシジミ、オナガシジミ、コムラサキ、ミヤマシロチョウ、ベニヒカゲ、クモバベニヒカゲ、ウラジャノメ
部会注目種（N-Ⅲ）	フジミドリシジミ、オオムラサキ

注）カテゴリー区分は、静岡県版レッドデータブックの区分に従った。

■30種の陸・淡水産貝類

陸上に生息するオクガタギセル、カサキビ、ミスジマイマイ、淡水に生息するカワニナ、サカマキガイなどが確認されています。亜高山帯の石灰岩地は、ナガナタネガイの県内唯一の確認場所となっています。

なお、絶滅の可能性のある種として、ナガナタネガイやカサネシタラガイなど9種が確認されています。



モノアラガイ(準絶滅危惧)

絶滅の可能性のある陸・淡水産貝類

カテゴリー区分	絶滅の可能性のある陸・淡水産貝類 (過去の文献に記載があるもの)
絶滅危惧Ⅱ類 (VU)	ナガナタネガイ、オオトノサマギセル、ツバクロイワギセル、ミノブマイマイ、クロイワマイマイ
準絶滅危惧 (NT)	モノアラガイ、ヒラマキミズマイマイ、オクガタギセル、カサネシタラガイ

注) カテゴリー区分は、静岡県版レッドデータブックの区分に従った。

■201種の絶滅の可能性のある動植物

本町では絶滅の可能性のある動植物として、静岡県版レッドデータブックに掲載されている201種が確認されています。

静岡県版レッドデータブックでは、絶滅の可能性を下表のようなカテゴリーで分類しています。

静岡県版レッドデータブックのカテゴリー区分と確認種数

カテゴリー区分	基本概念	本町での確認種数		
		植物	動物	合計
絶滅 (EX)	本県で既に絶滅したと考えられる種	0	0	0
野生絶滅 (EW)	飼育・栽培下でのみ存続している種	0	0	0
絶滅危惧Ⅰ類 (CR+EN)	絶滅の危機に瀕している種	22	11	33
IA類 (CR)	ごく近い将来における野生での絶滅の危険性が極めて高いもの	3	3	6
IB類 (EN)	IA類ほどではないが、近い将来における野生での絶滅の危険性が高いもの	19	8	27
絶滅危惧Ⅱ類 (VU)	絶滅の危険が増大している種	51	23	74
準絶滅危惧 (NT)	存続基盤が脆弱な種	19	22	41
情報不足 (DD)	評価するだけの情報が不足している種	0	11	11
絶滅のおそれのある地域個体群 (LP)	地域的に孤立している地域個体群で、絶滅のおそれが高いもの	0	0	0
要注目種 (N)	本県独自のカテゴリー	23	19	42
現状不明 (N-I)	現状が不明な種	4	0	4
分布上注目種等 (N-II)	絶滅の危険性は小さいが、分布上注目される種	4	13	17
部会注目種 (N-III)	その他各部会で注目すべきと判断した種	15	6	21
	合計	115	86	201

【資料：まもりたい静岡県の野生生物 (県版レッドデータブック 2004) など】

■「静岡の茶草場農法」の世界農業遺産登録

平成25年5月に開催された世界農業遺産国際会議において、川根本町・掛川市・牧之原市・菊川市・島田市の4市1町の地域で取り組んでいる茶草場農法が「静岡の茶草場農法」として、世界農業遺産に認定されました。

茶草場農法は、茶畑の周囲の茶草場（採草場）でススキやワラビなどの草を刈り、乾燥させてから茶畑の畝間に敷く農法であり、良質なお茶を育てることができるだけでなく、里山の自然環境の保全や生物多様性の確保にもつながります。

■町内でも多く確認されている外来生物

「外来生物」とは、人間の活動によって外国から入ってきた生物のことを指し、現在分かっているだけでも2,000種以上の外来生物が日本に生育・生息しています。

平成17年6月に施行された「外来生物法」では、生態系や人の生命・身体、農林水産業へ被害を及ぼすものなどの中から「特定外来生物」を指定し、飼育、栽培、保管、運搬、輸入などが原則禁止されました。

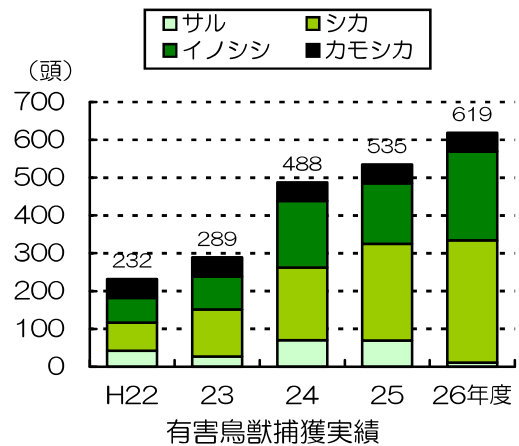
本町では、植物のオオキンケイギク、オオハングウソウ、鳥類のソウシチョウの3種の特定外来生物が確認されています。

■増加する有害鳥獣による被害

シカ、カモシカ、サル、イノシシなどによる農作物や林産物などへの被害が増加しています。

平成26年度の有害鳥獣捕獲頭数は、シカが323頭、カモシカが50頭（個体数調整）、サルが11頭、イノシシが235頭の合計619頭でした。個体が移動することもあり、年によって捕獲頭数は異なるものの、農林業への被害は増加しています。その原因のひとつとしては、高齢化などにより狩猟者数が減少していることがあげられます。

なお、「鳥獣による農林水産業等に係る被害の防止のための特別措置に関する法律」が平成20年2月に施行され、本町でも「被害防止計画」を策定しています。



【資料：産業課】

第3節 快適環境



1 人と自然とのふれあい

■町内に数多く分布する自然とふれあえる場所

本町は大井川や周辺の山々など、豊かな自然に恵まれていることから、自然とのふれあいの場がたくさんあります。大井川の本支流には数多くのキャンプ場が整備されており、川ではカヌーや釣り、水遊びなどを楽しむことができます。また、塩郷堰堤、レインボーブリッジ、寸又峡・夢の吊橋は「静岡県のみずべ 100 選」に選ばれているほか、寸又峡温泉、接岨峡温泉、白沢温泉などの温泉にも恵まれています。

周辺の山岳を巡るハイキングコースなどでは、自然観察を楽しむことができ、「なかかわね三ツ星天文台」や「資料館やまびこ」など、ふれあい施設なども充実しています。さらに、「牧之原・川根路のお茶」が「かおり風景 100 選（環境省）」、「大井川鐵道のSL」が「残したい日本の音風景百選（環境省）」に選定されるなど、香りや音など五感で楽しめるような要素もあります。

また、紅葉やアカヤシオ、シロヤシオなどの植物を鑑賞するスポットも数多く、花の開花時や紅葉シーズンには、全国から多くの観光客が訪れます。

人と自然とのふれあいの活動の場

活動種	項目	地点名称
キャンプ	キャンプ場	くのわき親水公園キャンプ場、不動の滝自然広場オートキャンプ場、三ツ星オートキャンプ場、八木キャンプ場、池の谷ファミリィキャンプ場、アプトいちしろキャンプ場
ウォーター スポーツ	カヌー	接岨湖
	釣り	大井川本支流
水とのふ れあい	静岡県のみずべ 100 選	大井川・塩郷堰堤付近、大井川・レインボーブリッジ付近、寸又川・夢の吊橋付近
	静岡県の湧き水 100	小長井の湧水
	温泉保養地	接岨峡温泉、寸又峡温泉、千頭温泉、白沢温泉
自然観察	ハイキングコース 観察ルート	沢口山、寸又峡（グリーンシャワーロード）、智者山、天狗石山、三峰山、接岨峡、大札山、山犬段（ブナ林）、蕎麦粒山、高塚山、千石平、八丁段、板取山、天水、三ツ星山、無双連山、不動の滝ハイキングコース、鶴山の七曲りコース
	静岡の自然 100 選	山犬段（蕎麦粒山）、梅地アカマツ天然林、寸又峡、寸又川源流部の原生林
	河川・池沼	徳山ときどんの池、富沢螢の里、神光寺沢、おろちの池
	ふれあい施設・広場	ウッドハウスおろくぼ・なかかわね三ツ星天文台、資料館やまびこ、長島ダムふれあい館・四季彩公園・大樽公園
香り・ 音・植物 の鑑賞	かおり風景 100 選	牧之原・川根路のお茶
	残したい日本の音風景百選	大井川鐵道のSL
	花・紅葉の観賞	大札山（アカヤシオ、シロヤシオ）、徳山桃沢（シダレザクラ）、寸又峡（紅葉）、接岨峡（紅葉）、山犬段（紅葉、シロヤシオ）

【資料：かおり風景百選、静岡県花の名所 180 選、静岡県のみずべ 100 選、静岡県の湧き水 100、自然観察コース 100 選ガイド、残したい日本の音風景百選、ふるさとの自然・中部編、川根本町癒しの里ハイキングガイド、静岡の自然 100 選、川根本町ホームページ】



人と自然とのふれあいの活動の場位置図

【資料：川根本町癒しの里ハイキングガイド、川根本町ホームページ など】

2 公園

■長島ダム四季彩公園や智者の丘公園などの公園

町内の公園については、長島ダム四季彩公園、智者の丘公園のほか、児童遊園、幼稚園・保育園の遊具と広場の解放、河川敷の親水公園や広場、各地区の手づくり広場などがあり、多くの町民に利用され、親しまれています。

3 景観

■すばらしい景観資源や眺望点の分布

本町は奥大井県立自然公園、本州唯一の原生自然環境保全地域を有し、雄大な渓谷や山岳によって創り出された美しい景観が特徴的です。

景観資源としては、数多くの河成段丘や接岨峡、寸又峡、大井川などの穿入蛇行河川、茶畑景観、SL やアプト式鉄道の景観などがあります。また、眺望点として蕎麦粒山、大札山、沢口山などの頂上をはじめ、智者の丘公園などの展望台があります。特に茶畑、鉄道、大井川・寸又川、背景としての山岳・森林などは本町を代表する景観要素です。また、平成21年1月には、大井川の河川景観、川根茶の香る茶畑、FSC 森林認証の取得などによる環境に配慮したまちづくりが評価されて、本町が「にほんの里100選」に選定されました。

■本町を代表する茶園景観

静岡県が平成20年3月にまとめた『静岡県戦略課題研究「大井川・伊豆」研究報告書』によると、本町の森林に囲まれた山間地集落は、海外来訪者にとっても有効な景観資源になりうるということが指摘されています。また、車窓景観における茶園の出現頻度は、県内の代表的な中山間茶産地である安倍川流域や天竜川流域などと比べて高く、茶園景観の評価としては、山間部の景観、丘陵から見下ろせる景観の評価が高くなりました。

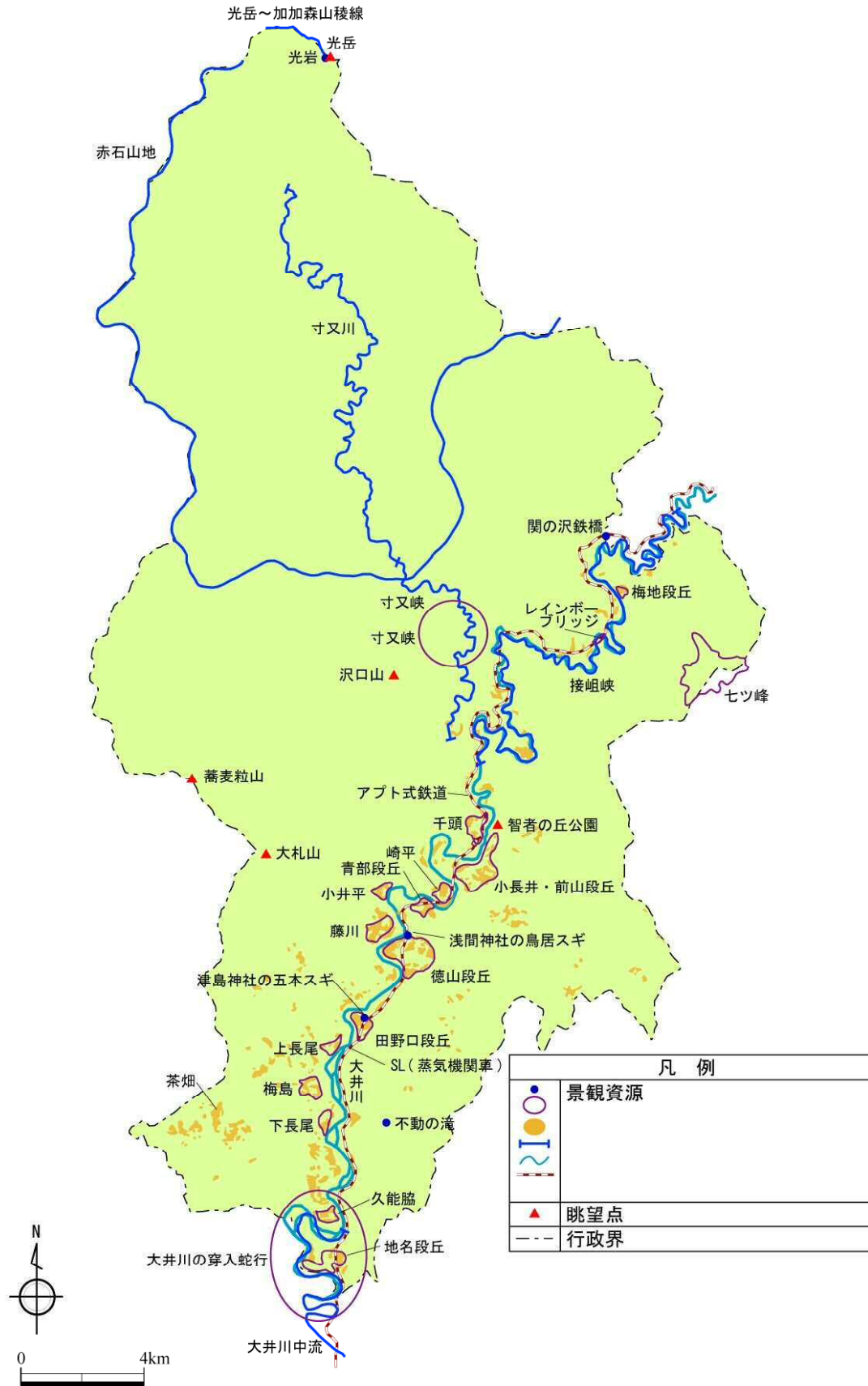
■景観阻害要素への対策

少子高齢化や担い手不足などの影響により、荒廃森林、放棄・遊休農地などが増え、また、老朽化して景観にそぐわない看板や建物も増加しています。『静岡県戦略課題研究「大井川・伊豆」研究報告書』によれば、電線電柱、住宅建造物、ガードレール、鉄塔などが特に好ましくない景観構成要素としてあげられています。

茶園景観を保全するため、静岡県及び本町を含む8市町で組織する「牧之原茶園・空港周辺地域景観協議会」では、「牧之原茶園・空港周辺地域屋外広告物ガイドライン」（平成23年3月）や「茶畑景観に配慮した屋外広告物の色彩ガイドライン」（平成24年3月）の策定、「牧之原・大井川地域の継承したい茶園景観30選」の選定を進めています。

■「日本で最も美しい村」連合に加盟

本町は、平成27年10月に「日本で最も美しい村」連合に加盟しました。「日本で最も美しい村」連合では特に、生活の営みにより形成されてきた景観・環境や地域の伝統文化を守り、これらを活用することで地域資源の保護と地域経済の発展に寄与することが期待されています。ちなみに本町の登録された地域資源は、「銘茶川根茶の茶園景観」「国重要無形民俗文化財徳山の盆踊」です。



景観特性図

【資料：日本の自然景観・東海版、川根本町観光パンフレット、川根本町ホームページ など】

4 歴史・文化

■38件の指定・登録文化財

町内には、国指定重要無形民俗文化財の「徳山の盆踊」をはじめ、37件の指定文化財があります。そのうち、天然記念物は「津島神社の五本スギ」「浅間神社の鳥居スギ」の2件、史跡は「小長谷城址」「徳山城址並びに支城（護応土城址）」の2件です。また、江戸時代から茶業の歴史を持っている本町では、お茶の「手揉製茶技術」が県の無形文化財として指定を受け、町内には数多くの伝統技術を受け継いだ名人・達人がおられます。

登録文化財としては、「大井川鉄道車両用転車台」が国指定登録有形文化財として登録されています。

指定文化財

指定主体	No.	地区名	種類	名称	指定年月日
国 県	1	徳山	重要無形民俗文化財	徳山の盆踊	昭和62年12月28日
	2	寺馬	有形文化財（工芸）	わに口	昭和31年10月17日
	3	寺馬	有形文化財（工芸）	わに口	昭和31年10月17日
	4	田野口	天然記念物	津島神社の五本スギ	昭和46年8月3日
	5	徳山	天然記念物	浅間神社の鳥居スギ	昭和46年8月3日
	6	接岨	無形民俗文化財	梅津神楽	昭和47年3月24日
	7	東藤川	有形文化財（工芸）	わに口	昭和50年3月25日
	8	青部	有形文化財（工芸）	わに口	昭和50年3月25日
	9	田代	無形民俗文化財	田代神楽	昭和60年3月19日
	10	徳山	無形民俗文化財	徳山神楽	平成08年3月12日
町	11	洗富小幡	有形文化財（工芸）	わに口	昭和45年11月2日
	12	坂京	有形文化財（工芸）	双盤	昭和45年11月2日
	13	小長井	有形文化財（工芸）	和鐘	昭和45年11月2日
	14	田代	有形文化財（古文書）	武田家朱印状他1	昭和47年3月9日
	15	沢間	有形文化財（工芸）	刀	昭和47年11月2日
	16	崎平	有形文化財（工芸）	脇指	昭和50年8月30日
	17	小長井	有形文化財（史跡）	小長谷城址	昭和50年8月30日
	18	水川	有形文化財（建造物）	水川阿弥陀堂	昭和54年3月5日
	19	上長尾	有形文化財（彫刻）	木造如来座像（智満寺）	昭和54年3月5日
	20	上長尾	有形文化財（彫刻）	千手観世音菩薩立像	昭和54年3月5日
	21	久保尾	有形文化財（工芸）	わに口	昭和54年3月5日
	22	桑野山	有形文化財（建造物）	東方薬師堂	昭和54年7月3日
	23	坂京	有形文化財（工芸）	わに口	昭和55年1月24日
	24	大間	有形文化財（工芸）	わに口	昭和55年3月13日
	25	大間	有形文化財（工芸）	わに口	昭和55年3月13日
	26	桑野山	有形文化財（工芸）	わに口	昭和55年3月13日
	27	接岨	有形文化財（工芸）	わに口	昭和55年3月30日
	28	上長尾	有形文化財（建造物）	智満寺山門	昭和63年2月12日
	29	水川	有形文化財（絵画）	村松以弘作 天井絵	昭和63年2月12日
	30	瀬平	無形民俗文化財	平谷の流したい	昭和63年2月12日
	31	青部	有形文化財（絵画・彫刻）	天井・欄間の絵画と彫刻	平成元年11月3日
	32	徳山	有形文化財（建造物）	愛宕地藏堂	平成12年11月14日
	33	徳山	有形文化財（建造物）	秋葉常夜燈籠	平成12年11月14日
	34	千頭西	有形文化財（建造物）	秋葉常夜灯	平成17年3月23日
	35	小長井	有形文化財（墓石群）	五輪さん	平成17年3月23日
	36	平栗	有形文化財（歴史資料）	智者山神社 棟札	平成25年4月1日
	37	壱町河内 洗富小幡	有形文化財（史跡）	徳山城址並びに支城 （護応土城址）	平成27年1月31日

【資料：町の文化財、川根本町ホームページ】

登録文化財

登録主体	No.	種類	名称	指定年月日
国	1	登録有形文化財（建造物）	大井川鐵道車両用転車台	平成13年8月28日

【資料：文化庁ホームページ・国指定文化財データベース】

■数多く残る歴史的・文化的遺産

町内には寺社や鉄道関係施設、吊橋、祭りなど、歴史的・文化的遺産が数多く残っており、魅力ある伝統的な文化が数多く残る町として、全国各地に情報発信されています。特にノスタルジックな駅舎や吊橋は数多く残っており、ロケーション撮影などにも利用されています。

また、地域の歴史を物語る貴重な建物や生活用品、民話、昔話など、多くの地域文化の保存や発掘、伝承活動が行われています。なかでも民話・昔話などは語り部の皆さんによって語り継がれ、「資料館やまびこ」や小・中学校などでは、当時を忍ばせる生活用品などが展示されています。グループや個人などで音楽や書などの文化を楽しむ方々も多く、文化協会を中心にさまざまな活動が展開されています。

その他の歴史的・文化的遺産

種別	歴史的・文化的遺産
遺跡	遮光器土偶（昭和27年に上長尾遺跡より出土）
寺社	徳山神社、徳谷神社
鉄道関係施設	川根索道の保安トンネル（日本一短いトンネル）、駿河徳山駅舎、田野口駅舎、下泉駅舎
吊橋	塩郷の吊橋、両国吊橋、青部の吊橋、小長井の吊橋、小山の吊橋、池の谷の吊橋、南アルプス接岨大吊橋、夢の吊橋、市代吊橋
施設など	東海パルプ地名発電所跡、日英水電（株）小山発電所跡、音戯の郷、フォーシなかわね茶茗館
祭り	梅津神楽（1月）、春を呼ぶ天狗まつり（春分の日）、徳山の盆踊り（8月）、田代神楽（9月）、徳山神楽（10月）、寸又峡もみじまつり（10月）、奥大井ふるさとまつり（11月）、寸又峡温泉感謝祭（12月）

【資料：川根本町観光パンフレット など】

ソハヤキ地区とは？

ソハヤキ地区とは日本の植物区系のひとつで、第三紀（約6,000万年前）から現在まで陸地だった九州、四国、愛知県以西の本州太平洋側などを含む地区を指します。ソハヤキは「襲速紀」と書き、南九州の古名である「熊襲（くまそ）」の襲、豊予海峡をさす「速吸瀬戸（はやみずのせと）」の速、「紀伊国（きのくに）」の紀を組み合わせた言葉です。中国大陸西南部とも関係の深い植物が多くあります。静岡県の植物分布は、大きく分けると東部・伊豆地域の「フォッサ・マグナ地区」、中部・西部地域の「ソハヤキ地区」に分けられ、本町周辺がその東限にあたります。



モチツツジ



【資料：フォッサ・マグナ要素の植物】



歴史的・文化的遺産位置図

【資料：文化庁ホームページ・国指定文化財データベース 川根本町観光パンフレット など】

第4節 生活環境



1 生活環境全般

■監視を継続している公害対策

本町では近年、工場等による公害の苦情はありませんが、一部の施設における周辺環境の悪化に対する苦情があり、県の指導を得ながら、現在もその状況の監視を継続中です。

公害防止については啓発活動を実施し、苦情に対する処理体制も整えています。また、公害を未然に防止するため、事業所などへのエコアクション21の取得を推進しています。

2 大気環境

■広大な森林が大気環境の保全に寄与

大気汚染物質は、工場から排出される硫黄酸化物(SO_x)、自動車などから排出される窒素酸化物(NO_x)や浮遊粒子状物質(SPM)、二次的に生成される光化学オキシダント(O_x)などがあります。これらのうち二酸化硫黄(SO₂)、二酸化窒素(NO₂)、浮遊粒子状物質及び光化学オキシダントには、人の健康を保護する上で維持することが望ましい基準として環境基準が定められています。

本町では大気汚染物質の常時観測は行われていませんが、平成21年度から光化学オキシダント区域に編入され、今後は光化学オキシダントに関する注意報や警報が発令されることとなります。なお、樹木には酸素供給や大気浄化などの機能があるため、本町にある広大な森林は、大気環境の保全にも大きな役割を果たしていると考えられます。

■特定悪臭物質濃度による規制を行っている悪臭

悪臭は、人に不快感を与えるにの理由となる物質が大気中に放出されるために発生するものです。しかし、「におい」は個人差や慣れが大きく作用しており、騒音・振動と同様、「感覚公害」と呼ばれています。また、「におい」の原因物質を90%以上取り除いても、感覚的には半分しか減少していないように感じるという特徴があり、悪臭対策を困難なものにしています。

本町は、悪臭防止法における特定悪臭物質濃度により規制され、「E区域」に区分されています。特定悪臭物質とは、不快なにおいの原因となり、生活環境を損なう恐れのある物質であって政令で指定されているものです。現在22物質が指定されています。

特定悪臭濃度による規制

項目	内容
規制地域	町の全域
規制基準	E区分(窒素化合物、低級脂肪酸に中庸で、他の物質にきびしい基準値を設定した区域)
特定悪臭物質	アンモニア、メチルメルカプタン、硫化水素、硫化メチル、二硫化メチル、トリメチルアミン、アセトアルデヒド、プロピオンアルデヒド、ノルマルブチルアルデヒド、イソブチルアルデヒド、ノルマルパレルアルデヒド、イソパレルアルデヒド、イソブタノール、酢酸エチル、メチルイソブチルケトン、トルエン、スチレン、キシレン、プロピオン酸、ノルマル酪酸、ノルマル吉草酸、イソ吉草酸(以上22物質)

【資料：静岡県生活環境室ホームページ】

■環境基準を達成している騒音

工場や建設作業、自動車の走行から発生する騒音や振動は睡眠や会話を妨げたり、快適な生活環境を損なうため、日常生活に影響を与えるものとして規制しています。

本町での騒音調査（面的評価）は、静岡県が自動車騒音の常時観測として一般国道 362 号で行っています。平成 26 年度の結果は、昼夜の達成率が 100%と全区間で環境基準（昼間:70dB 以下、夜間:65dB 以下）を達成していました。

一方、振動については調査を行っていません。

■光害(ひかりがい)の少ない夜空

「光害」とは、過剰または不要な照明などの光による害のことです。光害は、人間の諸活動や動植物の生息・生育に悪影響を及ぼすことがあるのと同時に、過度の屋外照明はエネルギーの浪費であり、地球温暖化の原因にもなります。

本町は夜空が暗く、全国的にも星の観測に適していた場所として知られています。なお、環境省が平成 24 年度まで実施してきた「全国星空継続観察（スターウォッチング・ネットワーク）」では、全国 2 位になったこともあります。

3 水環境

■環境基準を概ね達成している河川水質

河川の環境基準は、大井川の駿遠橋より上流が AA 類型、下流が A 類型に設定されていますが、その他の河川には環境基準は設定されていません。

大井川・下泉橋調査点では、静岡県が毎月水質調査を行っています。平成 26 年度の結果を見ると、BOD（生物化学的酸素要求量）の値が 0.5mg/l ととても低くきれいな水です。また、ここ 10 年間の経年変化をみると、BOD 及び DO は環境基準を達成していますが、pH は非達成の年度があり、SS もやや高い数値の年があります。

大井川・下泉橋における水質（生活環境項目）の経年変化

年度	大井川・下泉橋（AA 類型）			
	pH	BOD (mg/l)	SS (mg/l)	DO (mg/l)
平成 17 年	7.2~8.2	0.5	3	9.1
平成 18 年	7.0~8.0	0.5	8	9.2
平成 19 年	×7.0~9.1	0.5	20	9.5
平成 20 年	7.5~8.2	0.5	9	9.5
平成 21 年	7.5~8.5	0.5	2	9.6
平成 22 年	7.1~8.5	0.5	5	9.6
平成 23 年	7.4~8.0	0.6	12	10
平成 24 年	7.4~7.9	0.6	6	10
平成 25 年	7.6~8.4	0.7	2	10
平成 26 年	7.3~8.0	0.5	7	9.6
環境基準	6.5 以上 8.5 以下	1 以下	25以下	7.5 以上

注 1) 測定は静岡県が毎月実施。各項目とも年度平均値。

注 2) BOD の環境基準は年度平均値ではなく、75%値での比較となるため注意が必要である。

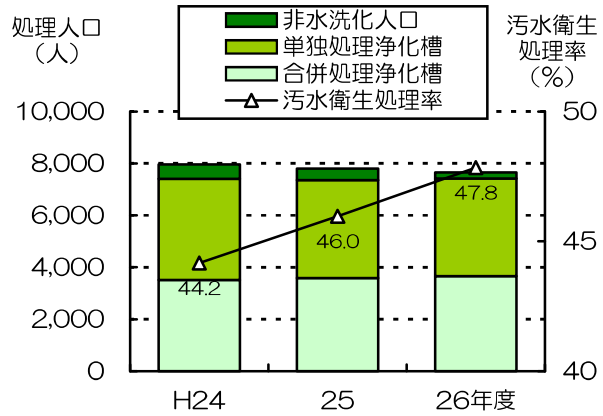
注 3) ×印は環境基準非達成。

【資料：大気汚染及び水質汚濁等の状況】

■生活排水の約半分が河川などに流入

家庭や事業所から排出される汚水は、河川や海の水質汚濁の主な原因となっています。そのため、下水道や合併処理浄化槽、農業集落排水処理施設などの整備は、水質汚濁の防止のためにとっても重要です。

本町の生活排水処理の状況をみると、合併処理浄化槽の整備が年々進み、環境への負荷の大きい単独処理浄化槽は減少しています。汚水衛生処理率は年々増加しており、平成26年度には47.8%となっています。しかし、未だ生活排水の約半分が直接河川などに流れ込んでいます。



注) 汚水衛生処理率 = (水洗化人口 - 単独処理浄化槽人口) ÷ 総人口 × 100 (%)
【資料:生活健康課】

■環境基準を達成している地下水の水質

硝酸性窒素及び亜硝酸性窒素は、肥料や家畜のふん尿、生活排水に含まれるアンモニウムが酸化したもので、作物に吸収されずに土壌に溶け出して富栄養化の原因となります。

静岡県が本町の徳山、田代、上長尾、下長尾、高郷において地下水の硝酸性窒素・亜硝酸性窒素濃度を測定した結果、環境基準(10mg/l)を超えた井戸はありませんでした。

年度	硝酸性窒素及び亜硝酸性窒素 (mg/l)		
	徳山	田代	上長尾
平成21年			4.2
平成24年	0.22		
平成25年			0.29
平成26年		0.19	
環境基準	10mg/l以下		

注) 測定は静岡県が実施。 【資料:大気汚染及び水質汚濁等の状況】

4 有害化学物質

■環境基準を達成しているダイオキシン類

ダイオキシン類に関しては、大気、水質、土壌、底質について環境基準が定められています。静岡県がダイオキシン類濃度の状況を定期的に調査・監視しており、町内では地下水が田代、徳山、土壌が上長尾、徳山、下長尾で調査が行われました。その結果、地下水、土壌とも全ての地点で低い数値を示し、環境基準を達成しています。

年度	地点名	測定値 (pg-TEQ/l)	
		地下水	土壌
平成22年	徳山		0.370
平成24年	徳山	0.043	
平成26年	下長尾		0.190
環境基準		1.00	1,000

注) 測定は静岡県が年1回実施。 【資料:大気汚染及び水質汚濁等の状況】

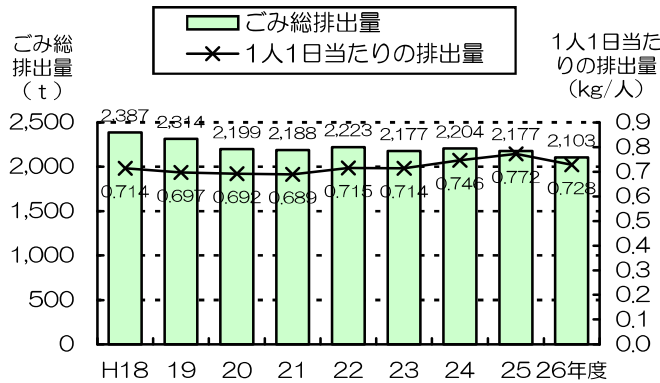
第5節 資源エネルギー



1 廃棄物

■減少しているごみ総排出量

本町のごみ総排出量は、平成 19 年度以降減少し、平成 26 年度は 2,103t でした。平成 26 年度の 1 人 1 日当たりのごみ発生量は 0.728kg/人・日で、県平均 (0.917kg/人・日、平成 25 年度) よりも少なくなっています。



ごみ総排出量と 1 人 1 日当たりごみ排出量の状況
【資料：一般廃棄物処理事業のまとめ、生活健康課】

■県平均より高いリサイクル率

資源ごみの回収を進めており、平成 26 年度のリサイクル率 (集団回収を含む) は 39.3% となっています。これは県平均 (21.0%、平成 25 年度) よりも高くなっています。

■田代環境プラザでの中間処理

一般廃棄物の処理は、平成 18 年 4 月から稼働を始めた島田市北榛原地区衛生消防組合の「田代環境プラザ」で行っています。田代環境プラザでのごみ処理方法は「シャフト式直接熔融方式」とよばれ、可燃ごみだけではなく、粗大ごみも一緒に熔融処理して、再資源化を図ることができます。また、剪定枝や食品残渣のリサイクル施設も併設しています。



■増加している不法投棄・ごみのポイ捨て

産業廃棄物などを法律が定める方法によって適切に処理せず、山林や原野などに投棄する「不法投棄」が問題となっています。

本町では、テレビ、冷蔵庫、洗濯機、タイヤ、自転車などの不法投棄が報告されています。また、観光シーズンには道路脇や河川などにおけるごみのポイ捨てが多く見受けられ、特にキャンプなどの利用によるごみの量は年々増加しています。このように不法投棄やごみのポイ捨ては増加する傾向にあり、未然防止策や連絡体制を整える必要があります。

2 資源エネルギー

■町内 5 箇所の水力発電

大井川上流域は年間降水量約 3,000mm の多雨地域であり、また、急勾配の地形を利用して電源開発が進み、現在では大井川水系全体で 15 箇所の発電所が稼動しています。

本町の水力発電は、明治 43 年に完成した地名発電所（株式会社東海紙料）から始まります。その後、地名発電所は昭和 6 年に停止、昭和 27 年に運用が再開されましたが、昭和 36 年に廃止されました。現在、稼動している 5 箇所の水力発電所は、いずれも昭和に入ってから運転が開始されたものです。

水力発電の概要

発電所名	ダム名	営業運転開始年月	認可出力	発電量（平成 24 年度）
湯山発電所	千頭ダム	昭和 10 年 10 月	22,200kW	82,407 千 kWh
大間発電所	大間ダム	昭和 13 年 12 月	16,500kW	66,887 千 kWh
奥泉発電所	奥泉ダム	昭和 31 年 1 月	92,000kW	410,162 千 kWh
大井川発電所	大井川ダム・寸又川ダム	昭和 11 年 10 月	68,200kW	281,240 千 kWh
久野脇発電所	境川ダム	昭和 19 年 3 月	32,000kW	124,959 千 kWh

注）事業者は中部電力株式会社。

【資料：図表で見るしずおかエネルギーデータ（平成 27 年 2 月）】

■再生可能エネルギーへの積極的な補助

東日本大震災以降、太陽光や太陽熱、風力、バイオマスなど、クリーンでかつ再生利用の可能な「再生可能エネルギー」への期待が高まっています。

本町では、豊富にある森林資源を有効活用するため、平成 20 年度に「森林（もり）のエネルギー導入促進事業費補助金」制度を導入しました。これは、薪などの木質バイオマス燃料を使用するストーブ・給湯ポイラー・風呂釜を設置すると、費用の 5 分の 1 以内（5 万円限度）で補助金が交付される制度です。薪や石油を燃やすと二酸化炭素が発生しますが、薪は石油などの化石燃料とは異なり、樹木が吸収した大気中の二酸化炭素を排出するので、大気中の二酸化炭素は増加しないとされています。地域にある森林資源を薪エネルギーとして活用することは、大気中の二酸化炭素を増加させないことになるほか、森林の循環利用などの環境保全につながります。また、平成 21 年度からは太陽光発電や太陽熱温水器、高効率給湯器などの新エネルギー・省エネルギー機器についての補助を行っています。

■公共施設への太陽光発電の導入

本町では、平成 22 年 6 月に本庁舎（20kW）と総合支所（15kW）に太陽光発電システムを導入し、電気使用量の大幅な削減を達成しています。崎平区、地名区の集会場においても太陽光発電システムを導入し、再生可能エネルギーの活用を図っています。



3 地球温暖化

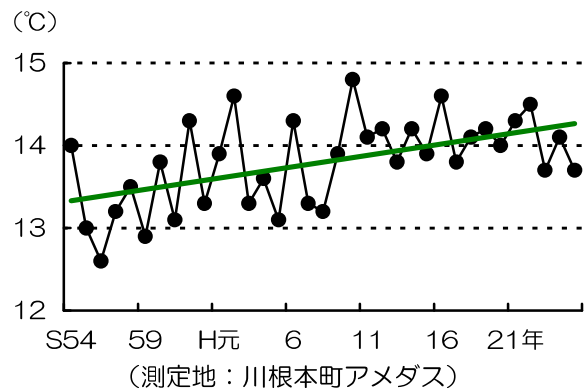
■上昇する年平均気温の変化

地球は太陽光の熱エネルギーを受けて温められている一方で、温められた熱エネルギーを宇宙空間に放出し、また、二酸化炭素、メタンなどの温室効果によってバランスが保たれています。

ところが化石燃料の燃焼や森林の伐採などによって温室効果ガスの濃度が増加し、これまで保たれていた地球の温度のバランスが崩れかけています。このような温室効果ガスの増加による地球表面の温暖化とそれに伴うさまざまな影響を称して、「地球温暖化」と呼んでいます。

平成 26 年 11 月に「気候変動に関する政府間パネル (IPCC)」が発表した第 5 次評価報告書によると、21 世紀末までに最大で気温が 4.8℃、海面が 82cm 上昇する恐れがあると予測されています。その結果、異常気象や海面上昇、農作物や生態系への影響などが懸念されています。

川根本町アメダスのデータによると、年平均気温は年々上昇傾向にあることがわかります。このような気温の上昇は、全国的・国際的な傾向となっています。



川根本町アメダスの年平均気温の変化
【資料：気象庁ホームページ】

■高山植物への影響

本町には南アルプスがあり、光岳南東部は本州で唯一「原生自然環境保全地域」に指定される貴重な自然資源です。ここで見られるチョウノスケソウやタカネマンテマなどの高山植物は、高山帯の厳しい環境に適応して生きていますが、温暖化により気温が 2℃上昇すると、標高の低い場所に生えている植物が高山帯にまで分布を広げ、高山植物を追いやってしまう可能性があると考えられています。また、南アルプスはさまざまな高山植物の分布域の南限でもありますが、最近では光岳のハイマツ分布の南限が北に移動してしまうのではないかと考えられています。

■大井川の魚への影響

大井川はアユの漁場となっていますが、水量の減少や冬季の瀬枯れ、塩郷堰堤による河川の分断などにより減少しています。また、昔から暖冬時にはアユが少なくなるといわれており、実際に駿河湾や相模湾の海水温が高かった年には、アユがあまり採れませんでした。温暖化により、海や川の水温が上昇すると、アユの繁殖に影響を与える可能性があります。

また、大井川水系には冷水性のイワナとアマゴが共存している河川があります。イワナはより水の冷たい源流域に、アマゴはその下流側に棲み分けていますが、平均水温が上昇すると、イワナやアマゴは上流域へと追いやられ、一部の河川では絶滅してしまうかもしれません。

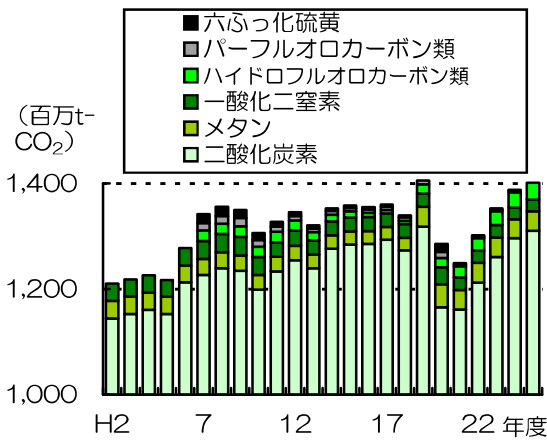
■お茶栽培への影響

お茶は亜熱帯性の作物のため、気温が少し高くなる程度であれば影響は少ないと思われます。しかし、少雨・高温により水が不足すると、葉の生育が抑制されたり、冬が暖かくなることで芽が不揃いになり、機械で摘みにくくなるなどの問題が生じると考えられています。

さらに、降水パターンが変わったり、水不足になったりすると、今まで以上に散水が必要になり、品質や栽培方法を変更する必要性も生じてくることが考えられます。

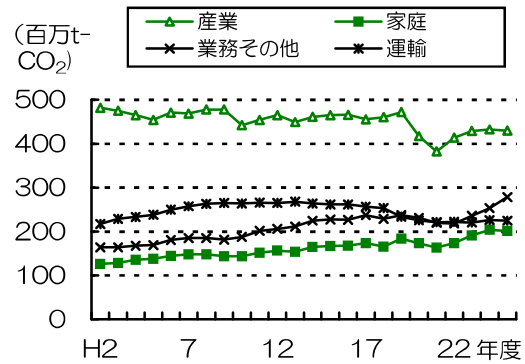
■増加している日本の温室効果ガス排出量

温室効果ガス排出量は平成20年の世界金融危機による景気後退に伴って、一時的に減少したものの、その後は増加しています。平成25年度のわが国の温室効果ガス総排出量は、14億800万tであり、過去2番目の多さとなりました。これは、ハイドロフルオロカーボン類などの代替フロン類の排出量が増えたことや、火力発電の増加で二酸化炭素排出量が増えた影響が大きいとされています。国が削減目標の基準年としている平成17年度と比較すると、特に業務部門(+16.7%)、家庭部門(+11.9%)が増加し、運輸部門(-6.3%)、産業部門(-6.0%)は減少しています。



日本の温室効果ガス排出量の推移

【資料：環境統計集】



日本の部門別二酸化炭素排出量の推移

【資料：環境統計集】

■30%削減目標を掲げる町有施設からの温室効果ガス排出量

本町では平成26年3月に「川根本町地球温暖化対策実行計画」を策定しました。この計画は、「地球温暖化対策の推進に関する法律」に基づいたもので、「水と森の番人が創る癒しの里」を理想像として、自然との共生・環境保護を促進するため、町の事務・事業から排出される温室効果ガスの歳出を削減し、環境に配慮した取り組みの推進を図ります。本計画によると、平成30年度（目標年度）までに平成24年度と比べて「30%削減」を目標として設定し、本庁舎、総合支所、文化会館をはじめとして、すべての町の事務・事業において、温室効果ガス排出の削減に努めていきます。

■森林による二酸化炭素の吸収は約4.2万世帯分に匹敵

森林を構成している樹木は、大気中の二酸化炭素を吸収して光合成を行い、炭素を有機物として幹や枝などに蓄え成長します。樹木が吸収し蓄積する二酸化炭素量は、例えば適切に手入れされている80年生のスギ人工林は1haで1年間あたり約7.8t-CO₂/ha、同じく80年生のブナ主体の天然林は約4.6t-CO₂/haの二酸化炭素を蓄積すると推定されます(林野庁)。

本町では町面積の約94%を森林が占めています。これらの森林が1年間に吸収する二酸化炭素量は、約42,000世帯が1年間に排出する二酸化炭素量と同じくらいであると推計されます。

第6節 環境教育・環境保全活動



1 環境教育・環境学習・環境保全活動

■自然観察やエコツアーをはじめとした活発な活動

学校では総合的な学習の時間のほか、学校給食残渣の堆肥化や「こどもエコクラブ」への登録・参加などにより、環境教育が行われています。また、地域ぐるみでの地球温暖化防止の活動、「F-net 大井川」によるFSC 森林認証の取得、「川根本町エコツーリズムネットワーク」によるエコツーリズムの推進をはじめ、環境保全活動を行う組織やボランティア団体などによる活動が行われています。

環境教育・環境学習・環境保全活動の事例

活動内容	具体的な内容
「緑のカーテン」普及の取り組み	中部電力(株)から贈られたアサガオやニガウリの種を希望者へ配布し、「緑のカーテン」として窓の外で育て、直射日光を遮ることで省エネを図る取り組み。学校、自治会、団体、公共施設などのほか、各家庭でも取り組みを行っている。
大井川の再発見(ふるさと発見回)	7月7日の「川の日」にちなんだ川の魅力を再発見する取り組みとして、大井川坂京河内にて、魚釣り、水生生物観察などを行っている。
大井川を学ぶ視察会	大井川の河川環境と水利用の現状を知ってもらうための視察会を実施している。
大井川を知る総合学習「大井川出前講座」	子供たちに大井川の現状とその環境について広く知ってもらうことを目的とした大井川出前講座を行い、流域の10校で開催した。
学校給食残渣の堆肥化	学校給食の残渣を乾燥し、粉末化したものを肥料として学校の花壇などで再利用している。生徒はこのような給食残渣のリサイクルを通じて、生ごみの減量化や資源の有効活用を学んでいる。
こどもエコクラブへの登録・環境活動	さゆり幼稚園、本川根中学校の2団体がこどもエコクラブに登録・参加している。
「F-net 大井川」によるFSC 森林認証の取得	適正な森林管理を目指して、森林活動団体で組織する森林管理グループ「F-net 大井川」が平成20年3月にFSC 森林認証を取得した。全国で24番目、県内では初の取得である。
「川根本町エコツーリズムネットワーク」によるエコツーリズムの推進	「川根本町エコツーリズムネットワーク」は、平成20年3月に設立された組織で、エコツーリズムのプログラム開発やエコツアーの企画などを行っている。
「大井川白羽山はばたきの森に集う会」による森づくり	ボランティアグループ「大井川白羽山はばたきの森に集う会」によって行われている。「百年先を見据えた森づくり」を目標とした活動。「ウッドハウスおろくぼ」に隣接する広さ約1haの土地を「白羽山はばたきの森」と名づけ、小中学生を含む町民を対象に植樹や森づくり体験などを行っている。
「ときどんの池ホタルを育てる会」による池の保全	ボランティアグループ「ときどんの池ホタルを育てる会」によって行われている。徳山の「ときどんの池」の保全・整備活動。水辺の整備やホタルの放流などを行っている。
「スターウォッチング on 中川根」による星空観察	ボランティアグループ「スターウォッチング on 中川根」によって行われている星空観察。
なかかわね三ツ星天文台での星空観察	「ウッドハウスおろくぼ」に隣接する「なかかわね三ツ星天文台」で星空の観察会を実施している。

【資料：企画課、川根本町ホームページほか】

2 環境情報

■ホームページや広報紙を活用した情報提供

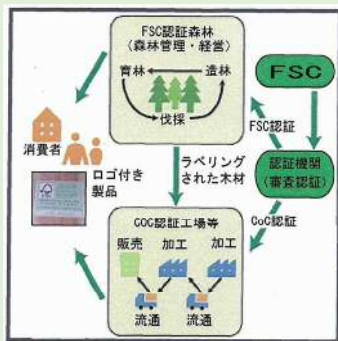
本町のホームページや広報紙などでは、環境情報の提供や環境問題についての啓発を行っています。

FSC 森林認証

FSC (Forest Stewardship Council、森林管理協議会) は、世界中全ての森林を対象とし、環境保全の点から見て適切で社会的な利益にかなない、経済的にも継続可能な森林管理を推進することを目的としています。このような森林管理がなされているかどうかを信頼できるシステムで評価し、適切な管理がなされている森林を認証します。



また、このような森林から産出された木材・木材製品には独自のロゴマークを付け、認証を受けた森林から来ていることを保障するものです。このロゴマークの付いた製品を幅広く流通させることにより、世界の森林保全へ向け、森林管理者から、木材・木材製品の消費者に至るさまざまな関係者を一体化しようとする取り組みです。



FSC 森林認証のしくみ



FSC 森林認証を受けた森林

